京城日報

○獨帝命令

獨帝はルクセンブルク公園に大本營を移さんとす露國に在る獨逸軍に命令してリガ、ドウインスクを攻略して此方面の危險を去れよと言へり(倫敦電報)

○勳章親授式

天皇陛下には二十九日午前十時三十分宮中鳳凰の間にて上原教育總監、松室帝室會計審査局長に勳章親授式を行はせられたり(東京特電)

教育總監軍事參議官陸軍大將 正三位勳一等功二級 男爵 上原勇作
授旭日大綬章

帝室會計審査局長官 正三位勳二等 松室致
敍勳一等授瑞寶章

○大連の記者團一行

朝鮮より入滿の記者團一行二十一名は奉天經由二十八日先づ旅順に戰蹟其他を訪ひ午後大連著市中を視察す此の夜大連記者團は一行を扇芳亭に招き歡迎會を開く滿鐵民政署等よりも列席者あり頗る盛會一行の多くは同夜發朝鮮に引返せり(大連特電)

○落合總領事

落合總領事二十七日奉天發二十八日旅順に赴き中村都督以下文武官を歷訪告別の挨拶を爲し一泊二十九日大連著民政署滿鐵其他に告別を爲し三十日哈爾賓丸にて歸朝の途に就く可し(大連特電)

○臺灣總督一行

安東臺灣總督亞米利加丸にて二十九

朝鮮大共進會

●宮殿下賜謁

閑院宮同妃兩殿下には二十九日午後二時より在京各國總領事領事及び同夫人、宣教師宗教代表者並に主なる官民及び夫人等を御宿泊所なる龍山總督官邸に召され謁を賜へり

●龍山總督邸晩餐會

二十九日夜龍山總督邸に開ける寺内總督晩餐會は兩殿下をはじめ奉り李王、王妃、李埈公、各殿下多數の朝鮮貴族列席せるが總督府よりは總督以下山縣政務總監、各部長官、局長、井口軍司令官、河村師團長、古海軍參謀長等亦臨席しかり

●開會式 祝賀會次第

十月一日景福宮內に擧行さる可き大共進會開會式並に祝賀會次第左の如く決定せり

午前九時 正門を開き煙花を打揚ぐ十時までに來賓參集、掛員所定の位置に就く

閑院宮殿下同妃殿下貴賓館御著、次いで來賓式場に著席(以下略)

日門司著同船搭乘の儘神戶へ向ふ街任中川財務局長、江口馬公要港部司令官等は鐵路にて東上せり(門司特電)

○中橋馬越兩氏渡鮮

中橋德五郎馬越恭平の兩氏二十九日午前門司通過渡鮮す(門司特電)

○河野農相

河野農商務大臣は立石秘書官野守事務官月田技師及び屬官二名を隨へ二十九日午前九時新羅丸にて釜山著鐵道ホテルに於て休憩午前十時四十分よりランチにて岩南半島農商務省直轄牛疫血清製造所及び市内を視察午後七時よりホテルに於て釜山官民の催に係る晩餐會に臨みホテルに一泊三十日午前十時三十分發京城に向ふ(釜山特電)

○釜山通過客

澤柳政太郎氏、石井若松市長、金澤博士、橘瑞超氏及び京城高等普通學校生徒百名廿九日午前內地より釜山著同十時三十分發列車にて京城へ向へり(釜山特電)

○古市博士

古市工學博士、本山大阪每日新聞社長二十九日午後九時五十分釜山出發汽車にて京城へ向ふ(釜山特電)

○藤山雷太氏一行入京

大日本精糖會社長東京商業會議所副會頭藤山雷太氏一行六名は二十八日朝弘濟丸にて釜山上陸大池旅館に休憩の上市內を一巡したる後入京鐵道祝賀會に臨席の上滿洲北淸を視察して上海より歸朝する由(釜山特電)

○獨大本營を移す

(東京發別電)

獨逸は大本營をルクセンブルグに移轉せり

閑院宮殿下同妃殿下式場に御入場御著席(奏樂 一同最敬禮)李王殿下同妃殿下、李埈公殿下、農商務大臣、總督、總督夫人定位に著かる

式の順序 事務委員長開會を告ぐ事務總長報告、總督式辭、令旨(一同起立敬禮)總督奉答、農商務大臣祝詞、內務大臣祝詞、京城協贊會長祝詞、出品人總代內地人鮮人祝詞、事務委員長式終了を告ぐ、式後御退出(奏樂 一同最敬禮)

慶會樓上にて御休憩、次いで諸員退出直に神武門外祝賀會場に參集

午前十一時五十分(煙花)諸員著席(祝砲)

閑院宮殿下同妃殿下祝賀會に御台臨

順序 事務總長挨拶、君が代奏樂天皇陛下萬歲三唱(總督發聲)殿下御退場

閑院宮殿下同妃殿下貴賓館にて御晝餐、總督、總督夫人御陪食、李王殿下同妃殿下李埈公殿下祝賀會場より直に御歸邸

午後一時第一號館より各館御巡覽の後御歸館

宮殿下御日程

御乘艦は釜山

三十日以後に於ける閑院宮、同妃兩殿下の御日程左の如し

九月三十日 午後 昌德宮午餐會に臨ませられ秘苑、博物館、總督府醫院、工業傳習所を御台覽

十月一日 午前 共進會開會式に御台臨 午後 共進會々場御觀覽 夜 總督晩餐會御台臨

十月二日 午前 赤十字社愛國婦人會總會に御台臨、午後 駐剳軍御檢閲、夜 軍司令官晩餐會に御台臨

十月三日 午前 鐵道一千哩祝賀會に御臨場

十月四日 午前 總督府及び警務總監部御視察の上京城中學校に於て各官公立學校生徒の授業御台覽

十月五日 午前 龍山御發車、午後 釜山御著、夜 御乘艦

●開會式係員

十月一日擧行さる可き共進會開會式係員左の如し

委員長 兒玉係長

▲受付係 係長荻田委員 係員 新庄委員、菊田委員、和田(一)委員、渡邊通譯官、會發事務員、吉田事務員、高橋事務員、田中通譯生、橋本通譯生、貝沼事務員、薄村事務員、安岡內事務員、小內事務員、永井事務員、宮尾事務員、田邊事務員、黑岩事務員、飯田事務員、掛場事務員

▲貴賓館係 係長遠藤委員 係員 增田委員、今村委員、安藤委員、岡部事務員、宍戶囑

▲式場係 係長入江委員 係員 池內委員、飯沢委員、野田委員、飯島委員、陶山通譯官、島田委員、田代事務員、小田事務員、陣內事務員、森岡託員

▲祝賀會案內係 係長久芳委員 係員 成瀨委員、陶山通譯官、渡邊通譯官、尾崎託員、江原囑、並井通譯生、服部事務員、[illegible]事務員、陣內事務員

▲餘興係 係長員警務官 係員 安藤委員

▲食堂係 係長郡山委員 係員 藤波委員、櫻田通譯官、新庄委員、武田委員、飯島委員、太田事務員、吉留事務員、淺井事務員、上野事務員、川添事務員、中谷事務員、門事務員、田代事務員、秋本屬、井口事務員、秋元事務員、山路事務員、金原事務員、秋田事務員、島居事務員、吉田(長吉)事務員、東調事務員

以上の外受付係及び式場係員は總て食堂係に協力の上各食堂係員は各分擔のテーブルに於て接待をなすこと

▲各館出品說明係 係員 中村委員、澤田委員、上田委員、村山委員、島田委員、八見委員、玄角委員、青木委員、山口委員、本岡委員、大塚委員、[illegible]委員、入江委員、永井委員、田中委員、前田委員、花川委員、野田委員、更田委員、岡委員、小池事務員、木村事務員

▲設備係 係長 阪枝委員 係員 藤川事務員、吉川技手

河野農相日程

河野農商務大臣は共進會開會式列席に兼ね鮮內視察の爲め二十九日釜山に著せり今日までに決定せる滯鮮中の日程左の如し

△九月廿九日 午前九時釜山著、鐵道ホテルに投宿△九月三十日 午前十時釜山發、午後九時南大門驛著入京、朝鮮ホテルに投宿△十月一日 午前八時總督官邸訪問、九時三十分共進會開式臨場、午後七時龍山總督官邸晩餐會に臨席△十月二日 午前九時半南大門驛發仁川に向ふ、午後六時龍山著、七時軍司令官晩餐會に臨場△十月三日 午前 時朝鐵一千哩祝賀會に臨列、午後一時恩賜金授產場、中央試驗所、工業傳習所巡覽△十月四日 午前十時李王殿下訪問(未定)午後二時農商務勸業模範場支場視察午後七時閑院宮殿下御晩餐△十月五日 午前龍山御發宮殿下奉送、濟生院、京城高等普通學校、女子高等普通學校視察△十月六日 午前九時十分南大門發午後三時十分平壤著△十月七日 午後三時二十分平壤發午後八時二十分新義州著鐵道ホテル投宿

夫れより新義州方面を視察し十月九日南大門驛著汽車にて入京十日出發歸任の豫定なるも未だ確定せず因に一行は農商務省山林局長、水產局長等の外三四名の由なるが總督府よりは入見農務課長、不破事務官の兩氏接伴として二十八日夜釜山に出迎へたり

●上村司令官入京

第四戰隊司令官上村少將、阪野參謀は閑院宮殿下に供奉して二十八日午後三時五十五分入京、朝鮮ホテルに投宿せるが二十九日午前十時より總督府に寺內總督を訪問したり

●飛行家招待會

京城協贊會は二十九日午後六時より帝國飛行協會主事澤柳少佐及び飛行家尾崎行輝の兩氏を招待し白水にて晩餐會を催す

●京城協贊會理事會

京城協贊會にては二十九日午後三時半より理事會を開き飛行機に關する打合をなせり

●日仁長官歡迎會

在京城仁川有志は目下滯京中の白仁民政長官を二十九日午後六時半より朝鮮ホテルに招待して歡迎會を催す

觀覽團消息

▲平壤第一公立普通學校四十七名 二十九日午前入京
▲平壤第二公立普通學校七十七名 同上
▲平原郡九十四名 二十九日午前水原へ
▲利川郡百七名 同上
▲江西郡五十六名 同上
▲昌原郡百五名 同上
▲遂安郡百五名 廿九日午前仁川へ
▲海軍將校以下四百四十七名 二十九日午前入京
▲太田派遣守備隊四十二名 同上
▲金化郡百六十三名 二十八日入京
▲漣川郡三百九十九名 同上
▲平康郡八十四名 同上
▲江華普通學校三十八名 同上
▲開城郡百八十五名 同上
▲群山府三十一名 同上
▲海州郡五十三名 同上
▲朔州郡六十二名 同上
▲龍川郡六十三名 同上
▲江界郡八十一名 同上
▲同公立普通學校四十七名 同上
▲大邱府百二名 同上
▲平壤商業學校十三名 同上
▲同第一公立普通學校 同上

■共進會入場者

廿八日(火曜日、晴)

△晝間 一萬三千三百五十五人
內地人 二千四百五人
朝鮮人 九千三百十三人
支那人 百十七人
其他の外人 五人
無料者 一千五百十五人

△夜間 五千八百八十五人
內地人 一千九人
朝鮮人 三千八百三十二人
支那人 三十一人
其他の外人 二十九人
無料者 九百八十四人

△合計 一萬九千二百四十人

△開場以來累計▽
▲晝間 二十一萬二百七十八人
▲夜間 十萬八百二十八人
▲總計 三十二萬八百四人

人事消息

▲中村雄次郎氏(滿鐵總裁) 二十九日午後七時三十分入京の筈
▲古市公威氏(工學博士) 三十日午前六時五十分南大門驛著入京の筈
▲本山彥一氏(大阪每日新聞社長) 卅日朝入京の筈
▲澤柳政太郎氏(貴族院議員) 二十九日午後九時南大門驛著入京の筈
▲石井良一氏(若松市長) 同上
▲金澤文學博士 同上
▲橘瑞超氏 同上
▲秋場格太郎氏(光州地方法院檢事正) 二十九日午前入京天眞樓へ
▲神保博士(理科大學敎授) 同上浦尾へ
▲室木彌次郎氏(代議士) 同上
▲大倉喜七郎氏(實業家) 同上天眞樓へ
▲石原正二氏(旅順工科學堂敎授) 二十九日入京
▲高野省三氏(三井京城支店長) 二十九日釜山方面へ
▲ハリス博士(美以敎監督) 二十九日鳥致院より入京
▲手島精一氏(東京高等工業學校長) 二十九日午前入京巴城館へ
▲島田茂吉氏(憲兵中尉) 同上荒井旅館へ
▲服部榮三氏(鴨綠江採木公司副技師) 二十八日入京山本旅館へ投宿
▲高瀨俊氏(同) 同上
▲鶴見憲二氏(同) 同
▲梅原一郎氏(同) 同上
▲渡邊喜八郎氏(安東銀行專務取締役) 同上
▲藤平泰一氏(安東府金融組合取締役) 同
▲式村義氏(大倉組製材所[illegible]) 同上
▲黑田與八氏(滿井商業會議所會頭) 同上
▲中野初太郎氏(安東商業會議所會頭) 同上
▲右近和作氏(日本海上運送保險會社專務取締役) 二十八日入京山本旅館へ投宿
▲藤山雷太氏(日本精糖會社長) 同上
▲川上常郎氏(平北道長官) 二十八日入京
▲鈴木隆氏(忠北道長官) 入京中の處二十八日歸任
▲水谷千萬吉氏(平壤鑛業所長) 二十九日朝入京浦尾旅館へ投宿
▲竹崎六次郎氏(大邱府尹) 二十九日夜入京浦尾へ
▲矢野久三郎氏(釜山稅關長) 同上
▲天野喜之助氏(群山府尹) 二十九日夜入京浦尾旅館へ
▲岡本至德氏(咸興地方法院檢事正) 二十九日夜入京不知火旅館へ投宿
▲前田信兆氏(光州地方法院長) 同上
▲宮崎又治郎氏(江原道第二部長) 同上
▲佐竹義準男(貴族院議員) 一行は來月六日頃朝鮮ホテルへ滯在の筈
▲古市公威氏(工學博士) 三十日午前六時五十分入京京城ホテルへ投宿の筈
▲宮原忠正氏(水原勸業模範場技師) 入京中の處二十八日出發歸任
▲長岡堯氏(同) 同上
▲菊池爲行氏(同) 同上
▲武田總七郎氏(同) 同上
▲末廣忠助氏 ▲レフロイ氏夫妻 ▲グリンブリン氏夫妻 ▲ソルズ氏(英人) 廿九日午前退京內地へ 同日午前入京朝鮮ホテルに

南言北語

ドウインスクの露獨の奪取戰は頗る激烈を極めたらしい▲兩軍は多大の犧牲を拂つて敗回取つたり取られたりしたとある▲鳥渡旅順の攻圍戰の時みたいな感がないでもない、が相手が獨軍だから露軍も働きよい事だらう▲英佛聯合軍も獨軍を切斷しようとし成効しつゝある▲實に結構だ、が戰は最後の五分間だ、踏張りが強くなければ一時の勝は當にならぬ▲兩方面の戰線から不利の敗報が飛び込んで來るカイゼルは異つ赤になつて居る事だらう▲殊に此方計りではない、巴爾幹でも獨逸の計畫は破れた▲即ち勃牙利を懷柔せば希臘も羅馬尼も藥籠中のものだと思つたが大間違ひ▲勃牙利は武裝中立で慾の皮を張り裂かんとし▲希臘、羅馬尼は却て塞耳維方となつて獨逸は大分手を燒いた▲斯うなつて來ると最初に豫想した通り獨逸は三方からヂリ/\と攻め付けらる事になる▲支那の帝政も策士連中が必死になつて速決を急いで居るから近くものになり相なと見て居ると▲米國ウイルソン大統領は曩に中華民國成立の際は其の共和の精神が米國と一致して居たから率先して賛成した▲然るに掌を引つくり返す樣に今更ら帝政復活を唱ふるのは共和の精神を侮辱したものだと憤慨した▲のみならず拙者一箇人の意見では大總統の皇帝登位に對しては絕對的に御贊成が出來ないと非公式で袁總統に申込んで來た▲帝政運動家も是れにはギヨツとしたらう▲米大統領も隨分氣が早い賛成も眞ツ先にやつたが不賛成も眞ツ先きだ▲不賛成と云へば帝政反對論者は窃かに手を拍つて喜んで居るのだらう▲獨逸の詰問には存外手緩かつたが支那に對する一言は頗る帝政論者の度膽を拔いた▲東三省の特別官制も近く行され相な段上將軍が新任以來何となく東省は活動して來たらしい▲活動するのは可いが日本人が地方で殺さるゝ事が多くなつたのは困つたものだ。

仁川期米

一錢上げの一圓三十錢 俄然二十錢高の十一圓八十九十錢 [illegible]

▲前場の商戰 [illegible]

▲當限受渡し高 [illegible] 限受渡高千四百五十石受渡値段八圓五十錢渡し方五百五十石 [illegible]

▲果して出直り [illegible]

下關相場

○朝鮮米は不味 [illegible]

▲朝鮮一等白米(當用) 十二圓七十錢
▲同二等白米(當用) 十二圓四十錢
▲同擂白米(當用) 十一圓五十錢
▲同釜山新玄米 九圓三十錢

朝刊と合せて八頁

定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金一圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢 一ヶ年金七圓 郵券代用二割增
廣告料 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible] 印刷人 [illegible]
發行所 合資會社京城日報社 京城太平通一丁目 電話 [illegible]

大擴張 京城南大門驛前 武藏旅館 電話二三六四番
共進會觀覽者には特に御便宜叮寧に取扱申候

(受驗獨習者の良師) 數學三大講義
通信敎授の特長を悉く具備して現代講義錄中の白眉欄外の註釋各種試驗問題重要事項のカード刷は皆本院の創案に係り受驗者復習者の最大至寶各種規則卒業證明親切平易會費低廉
算術 代數 珠算
會費好機 只今入會金全免 見本進呈
東京本鄉駒込林町 電話下谷一四九八 東京通信學院

最上薄口醬油 生揚印 發賣仕候 永登浦 大塚醬油釀造所

閑院宮殿下御召艦『常盤』同供奉艦『日進』繪ハガキ本日賣出し
始政五年紀念共進會 仁川協贊會發行 紀念繪葉書 紀念スタンプ附 二枚一組 二十錢 送料三錢
仁川水族館繪葉書各種出來 一枚二錢 送料廿枚迄二錢
發賣元 仁川宮町 澁川繪葉書店 同水族館內 同出張所

冬衣大賣出し 十月一日ヨリ五日マデ ツリキレ見切反物 澤山
地方ヨリ御注文ハ直ニ御送リ申上候
京城本町 三中井呉服店 電話三七

被服拂下
一黑色外套外拾點
右賣却ス詳細ハ本月二十九日以後ノ朝鮮總督府官報ニ在リ
朝鮮駐箚軍經理部

來ル十月二十四日本府及各道(京畿道ヲ除ク)ニ於テ見習試驗ヲ施行ス志願者ハ九月廿七日朝鮮總督府官報廣告見習採用試驗志願者心得ヲ參照シ本年十月十五日迄ニ本府又ハ內試驗ヲ受ケムトスル官廳ニ出願スヘシ
大正四年九月 朝鮮總督府 見習試驗委員長法學博士秋山雅之介

朝鮮語夜學生募集
十月六日ヨリ新學期開始ニ付キ入會希望者ハ十月三日迄ニ願書ニ履歷書添付差出サレタシ規則書所要者ハ郵券二錢送附ヲ要ス
東京城大和町(電話二七六番) 東洋協會植民專門學校京城分校附屬 朝鮮語講習會

宇治茶 月桂園 京城旭町一丁目 電話八九一番

京染 染料暴騰以前見越買込有爲染代値上せず從來同樣直段にて堅牢迅速に染上候 京都市柳馬場五條北 特約取引所 [illegible]

明治足袋 三宅商店 [illegible]

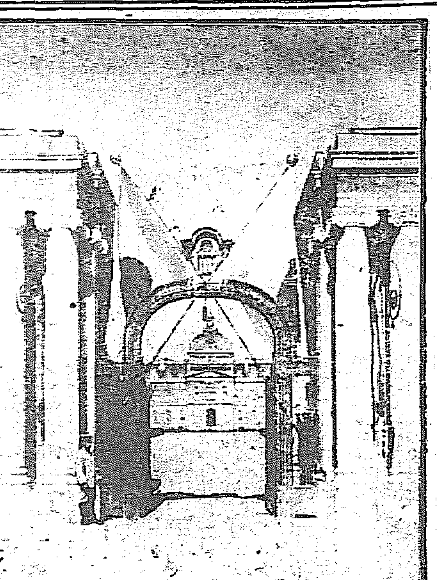
謝近火御見舞
昨夜近火の際は早速御馳付御見舞を下され難有奉謝候混雜の折柄御名前洩るゝ向も有之候に付略儀以紙上御禮申上候
大正四年九月二十九日 仁川京町一丁目
米穀商 門畑喜八郎
米穀商 大籔儀太郎

瓢水味淋 堺 鳴瀧釀
專賣店 京城本町二丁目 前田酒店

優等清酒 一鶴
京城本町三丁目 本莊酒店

寒冒症患者に急告
候の變り目には風引人數多く夫れを閑に付せば大患となる速に治療を要す
京城旭町三丁目一番地 病治療 特得マッサージ 電話取次二二五二 長生堂 (午前宅診午後往診)

閑院宮殿下御旅館 ─龍山貴賓館─



扈從し奉りて
玄界洋上の闇夜白波狂ふところ
御召艦前の水雷演習の壯觀
總督附武官　海軍少將　森義臣氏謹話

閑院宮載仁親王殿下同妃智惠子殿下の御召艦常磐は第四戰隊旗艦日進供奉し廿四日神戸解纜、廿八日仁川港に入港したが之より摘き神戸にて兩殿下を迎へ奉り京城まで扈從したる總督附武官森海軍少將は謹しみて語りて曰く

兩殿下には廿四日午前十時神戸米利堅波止場より御召艦常磐に御移乘官民多數の奉送裡に同十一時神戸を御解纜遊ばされた御召艦の前には上村司令官の座乘せる旗艦日進が威容堂々として御先導申し上げ須臾にして風光絹の如き明石海峽を通過せしが猶ほ兩艦の舳艫相啣みて進航する行手には青螺點々たる瀬戸内海の島々のたゝずまひさては中國四國の遠山近岳の姿さながら一幅の畫幅を展べたる如く天高くして海波穩やかなる瀬戸内海の航海は兩殿下共いと御滿足のやうに拜せられた斯くて同日は午後六時讃岐の粟島沖に御假泊、翌二十五日には午前六時に御出艦、三原海峽御通過の上同午後六時には下關海峽の東入口なる豐前部崎燈臺沖に御假泊遊ばされ、廿六日は午前七時御出航下關海峽御通航、水天渺茫たる玄界洋を壹岐對馬の海峽御通過、深紅の落暉水平線に沈む頃には對馬南端を過ごさせられた、同夜は又南鮮巨文島沖にて廿五日仁川を拔錨南下した第二艦隊鹿島二笠に出會、月明かなる海上御召艦より約四千米突の彼方にて兩艦共猛烈なる水雷防禦演習を行ひつゝあつたが其の閃々煌々たる探照燈の光輝は海上時ならぬ壯觀を極めた、廿七日は又多島海沖より南鮮沿岸の御航海、廿八日午前九時頃仁川八尾島沖に御入港あらせられたが午前十時に至り御召艦常磐の大檣頭には光輝燦たる皇族旗の輝き渡ると共に廿一發の皇禮砲が發射し兩宮殿下とも愈々此時より公式に皇族の御資格と成らせ給うたのであつた、此の御航海中前後五日の間は實に近來稀有の天候であつて秋天一碧拭ふが如く海上また波靜かにして風收り兩殿下の御航海愈よ恙なかりし事は實に兩殿下御徳の然らしむる所と拜察し奉る次第である、又此の航海中兩殿下共に御機嫌いと麗はしく始終上甲板に起たせられて遠近の山容水態を御覽遊ばされ猶ほ扈從の者を召されし上海圖を披きつゝいとも御熱心に地理歷史等の御研究あり且つ艦務の操練なども御熱心に御覽あり特に兩殿下の御旅情を慰め奉る可く常磐後甲板にては水兵の角力を御覽に供し殊の外の御滿足を得たのは有難いことであつた。

御旅情を慰め奉つた艦上の奏樂
思召に適つた水兵の相撲

閑院宮兩殿下這回の御航海は前後五日間共海上非常に靜穩で何よりも仕合せな事でございました、殊に神戸御出艦以來麗はしき瀬戸内海は勿論玄界にても朝鮮沿岸にても常に遠近の山々が見えて兩殿下の御旅情を慰め奉つたことは何よりも悦しい事でございました、併し兩殿下共海上の御航海には從來とても常に御機嫌麗しく拜せられ殊に妃殿下に於せられましては數年前沖繩縣の赤愛會總會に台臨の砌、海上時ならぬ時化に對しても常に御元氣よく在らせられました程で這回の御航海なども餘程御感興深く思召されたやうに拜せられます、又御召艦上にては兩殿下共大抵上甲板に起たせられ上村司令官、森總督附武官阪野參謀等伺候の人々を召されて海圖により種々御研究遊ばされたやうでございます、殊に兩殿下共音樂の御趣味深く在せられますので毎日御晝餐と御晩餐を召された後は常磐上甲板で海軍軍樂隊の奏樂を聽かせられました又水兵の人々より艦上の素人相撲を御覽にいれましたが何分ズックに釣床の土俵を設け行司には水兵服の軍人が現れるといふ珍らしい相撲でございましたから兩殿下には殊の外御感興深く（御覽になりました）此の他常磐の乘組兵曹から尺八の曲も聽し召され又夜に入れば艦内の人々を集めた甲板上に水兵二名の出演になる浪花節が始まりましたが兩殿下共御台臨非常な御嬉びの樣子に拜せられましたので水兵は身に餘る面目を施しました（近侍の方の謹話）

大共進會　飛行機の組立終る

共進會開會式當日京城訪問飛行を爲す可き尾崎行輝氏は澤柳少佐と共に三名の工手を督し格納庫の設備と飛行機の組立を急ぎつゝありしが格納庫は廿八日落成廿九日には飛行機の組立を終りたり右飛行場たる龍山練兵場は格納庫の周圍十間四方を危險區域とし飛行場一萬餘坪を警戒區域とし場外には柵を設け一般の觀覽に供す可く開會式當日は午前七時より八時の間に會場訪問を爲す筈なり而して飛行機の觀覽は毎日午前九時より午後五時迄とし飛行場内の格納庫にて協會の技師說明の勞を取る可く一般の混雜を防ぐため一定の料金を徵し入場せしむる筈協贊會は一日より十七日に至る飛行期間中龍山憲兵隊より十數名の騎馬憲兵の出張を乞ひ又飛行中萬一の用に備へんため一臺の自動車を準備し途中發飛すべしと着陸等の際は應急の方法を講ずと

忙がしい審査室

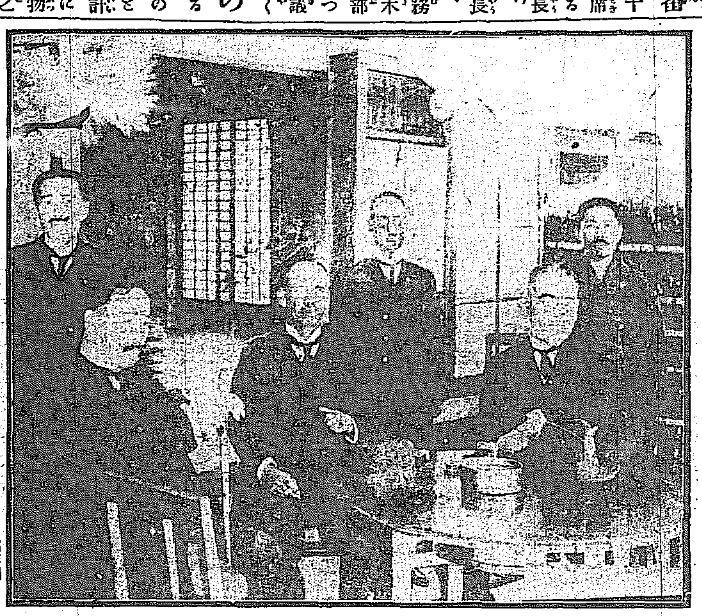
共進會出品物の審査は最も嚴正に行はれつゝある、觀客は陳列棚の所々に品物が取り除けられて『審査中』の札が掛つたり、係員が網を引張つて一般の出入を禁じた中で帳簿に照合しつゝ頻りに品物を檢閱してゐるのを見るであらう、又或出品物には審査濟の朱印の捺されてあるのを發見するであらう審査の内容は絕對秘密に爲つてゐるのでその進行についても知る由は無いが、廿七日七分方は審査を終了したと云ふことであつたから九月中には總ての審査を了る可く、その發表は十月十七日午前十時で襃狀授與式の席上に於て一般に公表されるのである審査長は山縣政務總監で、第一部長中村農務課長、第二部長持地局長、第三部長齋藤營林廠長、第四部長村田鑛務課長、第五部長原技師、第六部長豐永博士、第八部關屋學務局長、第九部伊藤技師、第十部鈴木局長、第十一部大塚課長、第十三部末松事務官以下多數の審査官があつて各々之れ等審査の結果を審査會議で評議することは數回、その上で漸く定るのだからその間の審査官の心痛と多忙は他人の伺ひ知ることの出來ぬものがある、殊に現物のみでは審査の出來ぬものになると其の出品者の事業の現狀や信用や計畫をも一々調査せねばならぬ、現に鑛業部の如きは九月廿日頃既に現物の審査を終つたのであるけれども之れが經營者の實際の仕事を調査する爲めに手間取つたらしい、審査の上は何人も之れに口を挾む權利を有たぬのだが然し色々の世評のあることは免れぬので係官は出來る丈出品者に滿足を與ふ可く愼重の態度でその事に當つてゐる

獻上品
京城府は白銀火爐

這回共進會開會式御台臨の宮殿下に對し京城府より奉獻する火爐及び茶罐は何れも美術品製作所の謹製品にて火爐は純銀製で朝鮮瓢形になつてゐる目方は六百四十四匁至て優雅に打物として拵へられたもので槌目が其儘保存されてある茶罐も同じく純銀製で之も瓢形になつた打物であるから槌目鮮やかに口及び柄の毫の所には高肉彫を施してある、此二個の打物の容器は雜木造りの箱で内部は朝鮮産の生糸を以て織つた羽二重を貼つて竪横の長さが二尺高さが一尺二寸程で磨きをかけられてある之れに目録と說明書を添へ金谷府尹から京城府民總代として奉獻することになつてゐるがこれは各道の奉獻物と同樣總督府の手を經て取扱はれる相である

兩殿下奉迎の準備全く成る
昌徳宮を御訪問

廿九日李王殿下以下李王家公族、朝鮮貴族等の訪問を受けさせられたる宮殿下並に同妃殿下は卅日李王殿下を昌徳宮に御訪問相成る筈なるが當日李王家に於ては宣政殿に於て兩殿下の御會見ありて後〇時三十分仁政殿にて午餐の御饗應あり其れより秘苑、動植物園を御觀覽相成り午後三時三十分弘化門より御出門龍山に御還啓相成るやにて昌徳宮前には大國旗を交叉し城内の道筋、その他の修理も全く竣り掃除萬端手落ちなく御奉迎の準備成れりと尚ほ十月二日には赤十字朝鮮本部總會並に愛國婦人會朝鮮總會を同宮苑内にて開催さるゝにつき同日も兩殿下御台臨ある筈なり



家庭博來賓室の後藤男（右）と中村是公氏（左）『君、寫眞師君、我躯を若く撮つてくれ二十歲臺位に……』

秘苑觀覽謝絶
卅日より三日迄

李王職にては昌徳宮内秘苑及び動植物園を共進會開會中に限り協贊會々員その他觀光團の爲特別に觀覽の便宜を與へ居れるとは既報の如くなるが閑院宮並びに同妃兩殿下台臨の前後卅日、一日、二日、三日の四日間は一般の觀覽を謝絶する由

貴賓室の裝飾

開會式當日閑院宮殿下並びに妃殿下御臨場の光榮に浴する共進會に於ては其の奉迎準備に日も維れ足らざるの有樣なるが二十七日午後二時よりは委員會を開きその設備事項を協議し午後五時頃散會せりその内容につきては未だ總督の檢閱決裁を俟ざれば茲に發表するを得ざるも光化門には大緑門を設け、御休憩所に當つ可き貴賓室、開會式場たる勤政殿等にも特別の設備を爲し場内一般に淸淨に掃除を行ひ各舘陳列品其他充分手落ちなく整頓せしむる筈なりと

彩光團
開會式擧行當夜市中を練る

來月一日は始政五年記念物産共進會の開會式擧行の當日にして特に閑院宮殿下の御台臨を辱うするを以て京城協贊會にては祝意を表する爲全市を擧げて各種の催しをなす事に決し各町内にては目下共々準備中なるが當日は晝間は旗行列を催し尚此外屋臺を曳き出し假裝行列をもなす筈にて夜間は一大提灯行列を擧行する事に決したれば未曾有の盛況を期すべく廣告行燈等如何なる種類のものにても行列に加へしむる方針なりと尚同夜擧行さるゝ提灯行列の道順をきくに一日午後五時黄金町一丁目電車交叉點より京城日報社前廣場までの間に集合の上大平町二丁目を經て南大門内に至り左折して府廳前を經本町通り京城電氣會社横町より總督邸門前に出でこゝにて萬歲を三唱し歸途本町通より永樂町二丁目を過ぎて黄金町を上つて南大門通りに出で鍾路を經て光化門通より協贊會會場に練り込み會場にて萬歲を唱へ解散するものにて晝間の催し物に就いては警察の取締上一應協贊會事務所まで其催しの方法を屆け置く方便利なる由

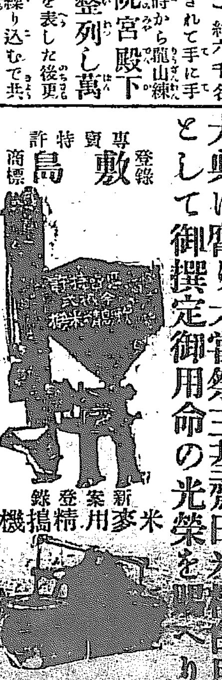
學生團提灯行列に參加

十月一日共進會開會式の當日協贊會側の催し物は別項記載の通りだが此日京龍間の各官公私立諸學校の男女生徒（中普通學校生徒は五年以上小學校生徒は三年以上）約六千名は數百名の教師に引率されて手に手に紅提灯を翳し午後七時から龍山練兵場に勢揃ひして閑院宮殿下の御旅舘前に整列し萬歲を三唱して敬意を表した後更に隊伍整々京城市内に繰り込むで共進會場光化門通りを練ることゝなつた

釜山鎭より遠くなく　近き途な電車によりて　僅に二十分
東萊温泉場　蓬萊館　電話東萊五番

本椿香油の大名譽

實業博覽會に於て數多き髮油の内獨り我本椿香油のみ金牌の榮譽を荷へり如何に本椿香油は他の髮油より勝れるかを知られよ
故に曩きに宮妃殿下及宮内省御儀用の光榮を拜し華族貴紳方は勿論上流社會に於て盛に愛用せられつゝあり
●注意　頭上桶なきは僞なり
定價　廿錢、卅錢、六十錢、壹圓

千載一遇の名譽
今橋式敷島精米機は本秋御擧行の御大典に膺り大嘗祭主基齋田米精白用として御撰定御用命の光榮を賜へり
專賣特許　登録商標　敷島
新案登錄　米麦用精搗機

○朝鮮京城於共進會機械運轉廣告
共進會開會中毎日左の諸機械を運轉し實地作業を御覽に供すべきを以て必ず御來會御實驗の上御用命且御高評あらんことを奉希望候
◎今橋式自動敷島精米機五連座運轉裝置　此精米石高拾時間　六十石　糠集め小米篩別共自動取揚一人足
◎同大形（舶來エンゲル形に同じ）一臺運轉　此精米石高同上　四十石　動力五馬力
◎同敷島籾摺機一臺運轉　此製石高同上　約四十石　自由篩付　動力一馬力半
◎製莚機一臺作氣實施　此製莚高一日　廿五枚以上　但叺製共
會期中店員數名會場及假出張所に詰切候に付御質問及御用命共被仰付度奉希望候
敷島精米機及其外製造元　米穀精米業
大阪市西區江戸堀北通三丁目　今橋芳松商店
京城府旭町一丁目九四番地　同京城假出張所

浴場を新築し全く面目を一新せる
温陽温泉は泉質清澄玲瓏如珠
京釜線天安驛より三里
自働車にて三十分
京城より温泉場まで片道二時間半の行程
浴槽は普通男女浴槽四室の外御家族專用の浴室四あり硬質陶器を以て之を疊み結構は極めて美麗に有之候
旅舘は諸事整頓内地一等旅館に比し遜色なく至極鄭重に御取扱ひ申上候
部屋貸の設備をなし最も輕便にして居心地よく永く滯在の御浴客には極めて御便利に有之候

滿洲へ往く人のみやげは大連で
支那の翡翠、硯、書畫、骨董に限る
大連の方外軒は之を廉價正札に賣り方外軒は北支那第一の支那專門骨董店にて新時代ぶりの正直確實と云ふ定評を受け居れり

商況
東京期米特電
下關期米特電
生魚市場
天氣　一時晴れ

兩選手將に豫定の行を了へて 京城に向って歸還せんとす

北まはり

眠むい木浦　神崎憲一

松汀里で記者團見送りの佐藤第一部長、道野警視、高武事務官一行が降りる。十時木浦著、橋本府尹、河原警部、藤野府書記其他西村、佐藤兩木浦新報社員奈良釜山日報、高根本社支局長等の出迎を受け見物を兼ね市中を徒歩しながら三芳野旅館に投ず棉の木浦、米の木浦、魚の木浦も夜著いて翌たつ身には視察も見物も出來ず一泊の上木浦は眠い處哉と感じつゝ辭す（二十九日朝木浦發電）

▲行程を終らんとする **途上最後の一信**

滿洲では到る處偉大な金の力と人の力がぶちまかれた感じがする。臺灣では耕やさずしても豐なる天與の沃土に更に人力を加へたと云ふ感が起る朝鮮では徒らに荒廢に委棄せられた荒蕪瘦土に粒々辛苦の膏汗を流して今日を見るに到つたと云ふ觀がある。而して其れが皆大和民族の力の表現されたものであると思へば快心何ぞ堪へんやである。沿線到る處果しなく

▲**唯高粱畑のみ** 打ち續いた滿洲に鐵路蜒々として延び各地に都市の建設せられてゐる有樣、殊に露支兩國の勢力圏内に侵入して建設せられた長春の堂々たる市街に接すれば單に滿鐵と云ふ一會社のみの力ではなくて何うしても大和民族こそ云ひ日東帝國と云ふ强力の發現を思はざるを得ない、而して直に彼の印度に於ける大英帝國今日の擴勢に礎を爲さしめた東印度會社の昔を偲ばせられる。臺灣に投せられた大和民族の犧牲は森蔭暗き臺灣神社を拜がみ奉つただけでも不言の

▲**感慨胸に餘る** 然も芭蕉の葉蔭、夾竹桃風を壓して身に親しき御國振りを見聞きし得る時、南進

北進勃然として際限なく發展し行く我等が母國民族の偉大な力に讃美の辭を捧げざるを得ない。朝鮮鐵道、南滿洲鐵道、臺灣鐵道、其ゲーヂの廣狹、其延長の長短、其設備のよしあし、問題は夫れ等を超越する。確山あらば崩鑿し河あらば架橋し曠野にもあれ蠻地にもあれ風せず突進して行く

▲**鐵道の目的が** 恰も我等が母國民にのみ許され與へられてゐる勝ゆき意氣の表象の如く果敢であり勇斷である時無量の感慨に打たれざるを得ない。幸にして大和民族の一人として亨けたる生を喜悦讃美せざるを得ない、予は今茲に命せられた朝鮮滿洲臺灣の鐵道踏破の行の大半を終り最後の訪問都市たりし木浦に來りて二旬に近き越し方を追懐して語りたく報じたき幾多の感懷を有すれど今多くの餘裕を有せず之を以て最後の報告と爲さんと思ふのである（廿九日午前歸路湖南線鶴橋發電）

神崎北行選手歸著　今廿九日午後八時廿分南大門驛著

神崎北行選手は豫定の線路を踏破し愈よ今夜八時二十分南大門驛著汽車にて歸著の豫定也

別府南行選手は今尚滿洲にあり神崎選手より遲る事約一晝夜なる可

南まはり

無限の撫順炭　別府八百吉

大連を出た長春急行列車は月明の夜を衝いて北に走つた二十八日早朝目が醒めると秋の朝暉がパッと遼陽滿洲軍の兵營を照してゐた、列車にも沿線各停車場にも武裝した獨立守備隊の兵士が嚴然と警衛してゐるのが物々しく見ゆる、線路の兩側には紅熟した高粱が涯しもなく續いて其が支那人により漸く刈り取られてゐる、沙河の廢墟たる戰跡は停車場附近地獄松原の跡とて砂墓地が當時の慘狀を偲ばせてゐる。秋の古戰場を吹く風は身に泌みる程冷たい。七時半蘇家屯より撫順支線に乘り替える、撫順に近づくに從ひ山影漸次迫り窓は煤煙に蔽はれてゐる。日露講和の際二千億圓の償金より一撫順炭坑を獲得する方が有利だ、とさへ言はれた南滿洲の一大寶庫東西四里南北一里其地下は悉く是れ炭層百尺以上の石炭で滿鐵は目下七坑に分ち盛に採掘を進めてゐる昨年の出炭高は二百二十萬噸以上に及んだとは樺山理事の話であつたが何れにしても素ばらしいものだ（廿八日午後二時滿鐵撫順驛發電）

▲**目を慰る草花** 撫順から長春に向ふ、奉天より北するに從て滿洲曠野は愈々其の廣を加へ荒涼の度一層甚しくなる、沿線の高粱は漸次影を減し多く豆と粟に移つる。列車の發著毎に何を呼ぶのか、大聲を發する支那人の聲が淋しい。柳の梢ばまだ青いが野芙は既に黄ばんで居る。唯僅かに旅人の目を慰めるのは各驛構内空地に咲いた草花である（二十八日午後滿鐵双廟子驛發電）

▲**踏破す二千哩** 熱風吹く臺灣の南端打狗で暑さに困しみつゝ圓い月を仰いだ僕は數日後の二十九日午後十時北滿洲長春の晴れた空に片割月を望み秋寒に身を震はした、此の間海陸を踏破すること二千餘哩吾ながら其電信的旅行の迅速なるに驚く、長春は日露勢力の接觸點で、又た我租借地北端の都市である。停車場の構内に飩栗鼻赤鬚の偉大な露西亞士官數名を見た。流石に寒さの襲來も早く、初霜は九月三日に降りたと云ふ。停車場は滿鐵の終端驛だけ輪奐の美を盡して高宏である。吉長鐵道と東清線は此處で連絡して居る。倚ほ長春驛は北滿大豆の出廻り期になると一日五萬圓の收入は珍らしくない、日本一二の大停車場である、例によつて月光を浴び市中を一巡し十時四十五分有志の見送りを受け一路朝鮮に向ふ（二十九日午前滿鐵鐵嶺驛發電）

後藤男爵中村是公氏 廿九日午前家庭博の珍客

二十八日夜入京した男爵後藤新平氏は前滿鐵總裁中村是公氏と共に二十九日の午前十時二十五分

■**自動車を驅つて** 家庭博を訪問した

社員の案内で二階の會場に向ふ入口の輪轉機械場に諺文の說明を附した立札のあるのを見て後藤男は『ハヽア機械場かい、之を朝鮮人に見せるのは至極いゝ』と言ひながら昇つて行く、一號館に入ると凸凹のある硝子によつて長短伸縮、變態を映じ出す例の不思議の鏡の前に立つては大御機嫌で『これはいゝね、朝鮮人に新智識を授けるのは恁なものが一ばん手近だよ』といふ、入澤博士夫人の一疊半の寢所の前に立つては『東京ではこれが非常な大評判だつたが、こちらではどうかね』と社員を顧みる『當地でも御婦人方の注目を集めて評判です』と記者の言ふのを受取つて

■『**ウム左樣だらう、左樣だらう**』 幾度も首肯く、さうして第四號館の朝鮮料理を觀て『やッこれは大したものだ、素敵だな』と驚き『李王家で儀式に用ふる料理です』といふと『成程々々』とステッキを打ち振り打振り珍らしく打ち眺めその隣りの朝鮮人の家庭を觀て『これも立派だ、中流ぢやあるまい上流家庭だらう』などゝ言ひながら子供の人形の見てゐる千字文を引繰返して見る、斯く一々批評を加へながら各館を仔細に巡覽して運動場に出ると黒い髮を長く垂れた綺麗な朝鮮人の女の子が遊んでゐるのを觀て『いゝ子だな』などと頭を撫でながら來賓休憩所に入る、此處で記念の撮影をしようとすると寫眞師を顧みて『オイ

■**若く撮してくれ**、成るべく二十臺位に撮つてくれ、俺の朝鮮の智識は少なくも十臺に過ぎないからな』と笑ふ、やがて記念撮影も終れば少憩の上再び自動車上の人となつて共進會へ向つた

團體又團體

廿九日十二時までの團體は安寧小學校二十四人、沃溝郡七十一人、安東縣日支紳士觀光團四十三人、泗川郡八十八人、春川小學校廿名等、廿八日は水原千百五十人、元山小學校二百卅五人、谷城郡六十九人、金泉郡百八人、昌原百七十三人、遠越郡百人、木浦小學校三十三人、平康郡八十二人、務安郡九十八人、拘川普通學校二十七人、漣川郡百七十三人、開城郡九十九人、開城學校二十五人の大多數であつた

朝鮮家庭の誇り 祖先を尊び父母を敬ふ美風

家庭博覽會名譽會長　趙重應子談

忌辰版に於いて所謂辰と謂ふは祖先その他の誕辰日を指すのである、既に亡き祖先の誕生日には位牌に向つて恭しく禮拜するを常としてゐるが未だ存生中の祖父母、父母の誕辰日には一家を擧げて盛んに祝し合ふ、此の日に著る衣類は前から十分に用意をして置き食物なども出來る丈山海の珍味を作つてその日の來るを待つ、準備全く成つて愈々その日となれば家族の者は今日を晴と著飾つて用意して置いた御馳走を携へて親戚故舊を訪ねて贈物をするのである。忌と言はず辰と言はず、これを巧みにやつて行く事が主婦として大責任であり、有能無能が定まる主要な點なのである、主婦としての手腕は一に繋つて此の忌辰の行事を如何に扱つてゆくかにあり家例になつてゐるといふも過言ではない。それだから忌辰版は主婦にとつては何より大切なもので毎朝起きると同時に改める樣にしてゐる。私の言はうとするのは即ち此處だ、歐米諸國に於いてはイザ知らず、孝は百行の原とは東洋に於いては動かすべからざる定則である。古昔儒教の國に在つては忠とはこれも又動かすべからざる千古の格言なのである、家に在つて孝なれば仍ち國に在つては忠、忠孝は如何なる場合と雖も別離する事はないのである、忠孝を完うせんと欲せば人道人事を盡して始めて爲し得るのである、忠臣を孝子の門に求む、とは孝道の百行の基たるに歸するのである、近頃世道人心が兎角浮華輕佻に流れて西洋諸國の厭ふべき風潮を直輸入し此の尊ぶべき孝道を忽諸にする風がある。と同時に朝鮮の家庭は餘りに窮屈過ぎるといふ聲が聞える、成程朝鮮の家庭は窮屈に過ぎ嚴格過ぎるかも知れぬ、併しながら又た考ふるに自然の歎ひとして嚴格は寛易に窮屈は簡單になつてゆくものであつて別段是等に就いて氣を採む程のことはないのである、茲に於いてか祖先を尊び父母を敬ふ事を家政の基とせる朝鮮の家庭は大に誇るに足るべき事だらうと思ふ、此の點に就いては内地人と雖も倣つて欲しいと思ふのである。

●平南米界前途

當分米價は安らるへし本年平南の米作は昨年と殆んど大差なき收穫を豫想され一方麥は已に前年に比し四割四分の豐收を得粟亦頗る好調なるを以て平南米の道外移出は例年よりも著しく增加すべしとは何人も豫想する處なるが内地は一時暴風雨にて悲觀されたるも其後の秋晴申分なく或は第一回の作柄豫想よりも一層增收と傳へられ殊に廢存古米も頗る多く臺灣米亦無類の豐作にて過剩米はドン〳〵内地市場に殺倒さるべく豫想されつゝある際とて

阪神市場への鮮米買注文頓んと引立たず當業者は幾分悲觀に傾き居れるに搗てゝ古米の殘存尠からざる奥筋よりも豐作見定めもつきたる昨今

機を見て賣放さん形勢に在るを以て平南米價の前途は到底好調を望み難かるべしと某米商は語れり

●平南家畜出品

平南より共進會へ出品すべき家畜は豫ねて選定中なりしが愈々廿六日發表されたり出品物は平壤畜産組合より同組合地區内大同郡にて生産飼育したる牝牡牛二頭、平壤府田中周助氏自家生産飼育の豚二回雜種牡牝二頭、平壤府野口平八、鎭南浦府富田儀作兩氏飼育鷄各二番及び鷄卵各十四個、平壤府金德俊飼育鶩一番等にて何れも頗る見事なるものなりと

●堤川自衛組合改稱

忠清北道堤川自衛組合は内鮮人の合同組織にして大正三年十一月の創設に係り現竹内警察署長著任以來消防衛生の施設に鞅掌し襲に官民協力して三百餘圓の寄附金を募集し消防器具を補充し塵箱及び運搬車を設備し衛生維持費として一戸一錢以上二十錢の組合費を徴收し街路溝渠の清潔に細心の注意を拂ひ施設觀るべきものあり這回訓令により自衛組合を改稱し衛生消防の各組合に分離することゝなり規約草案中なり

演藝案内

壽町 詩館 電一〇五〇　當る九月廿九日より晴雨に不拘毎日午後正六時開演主催梅鶯會、若葉會秋季淨瑠璃大會●入場無料（木戸席代共無料）中錢いらず

櫻井町 大正館 電話八七三番　當る九月廿三日より特別大興行▲實寫南作ジャバの風景及び風俗▲喜劇チャンピオン競爭●新派悲劇『木がらし』全八卷▲米劇ブロンソン作●泰西大活劇『要塞』最長五千尺…（以下細字）

明治町 浪花館 電話二六〇番　浪界之四天王名人京山若丸一行來る○今晩の讀物　▲鹽原多助▲太閤記（京山福造）▲西郷吉之助▲飛行機（京山若丸）

黄金町四丁目 黄金館 電話二六三七　大然色活動寫眞會社滿鮮一手代理店●九月二十八日より特別大寫眞…『水中王』（原名誘惑）全三卷…○怪談百代の複金四卷納き、天活會社代表的作品にして…恐ろしき怪談寫眞なり…

黄金町 世界館 電話一四三四　當る九月二十五日より▲松旭齋天洋師出演▲世界的大魔術▲共進會特別興行▼毎日午後七時開場 土曜、日曜、は正午開演

御成町 御成座 電話一二九一　第十八回替藝題 紫海苔 全十場　▲登場人名 伊井蓉峰、…

本町 有樂館 電話二六六　新築落成●廿七日より特別大寫眞提供△實寫『伊國ドルヴィエーの風景』△新派大悲劇『夜の光』全二卷△泰西大活劇『狙擊』全二卷△喜劇『假女房』△泰西喜劇『毛谷村六助』全四十場主人公六助は…日活會社最近の一大傑作なり

龍山 佐久良座　●九月三十日（十三日目）前狂言大岡政談 小間物屋彦兵衛（大序より大切迄）切狂言一の谷 ふたば軍記三段目（熊谷陣屋の段）▲入場料 特等一圓、一等七十錢、二等五十錢、三等卅錢每日午後二時開演

鑛山用 水銀 新荷著 保税品有　京城本町二丁目 釘本藤次郎本店 電話長四五番 二七七四番

自轉車は『ミノヤ』に限る　販賣品は極度の安價にして 修繕は至極親切叮寧に致します　京城南大門通 新井藥舗前 電話二三七三番

無双醇良清酒 有薫　登録商標　衛生無害 品質無双　首藤合名會社吟醸造　精白米御小賣 キリンビール サッポロビール 醤油 龜甲萬 シトロン 三矢サイダー 各種　朝鮮發賣元 首藤京城支店 黄金町（電話一一七一番）

婦人科 産科 入院分娩應需　京城旭町壹丁目 中央婦人病院 院主 … 電話二三四〇番

朝鮮煙草株式會社　조선연초주식회사　京城義州通 電…　兩切煙草 パラダイス 十四本入 金五錢　刻煙草 コスモス 二十本入 金武錢

眼科專門　京城本町六丁目（元…）金井眼科醫院 院長 金井…

大日本優良清酒等 白鶴 ハクツル 品質純良 衛生無害　醸造元 攝津灘御影 嘉納合資會社　發賣元 京城本町四丁目 前田…

小兒科專門 内科　京城旭町三丁目（元十全病院跡）若槻醫院 ドクトル メヂチーネ 若槻… 監

酒井婦人病院　京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）入院隨意 電話二六〇〇番

債券現物特電

受渡株數八萬二千七百六十餘此代金五千六萬十千七百四… 一株に對する平… 八圓五十一…九厘　二十九日出來値段（前日との比較）東洋拓殖 …

京取公債直取引

甲號 內地米 … 六九、五五七 一七四九、九六三　二十九日前場 當限寄付 一一、五三 中限寄付 … 先限寄付 一一、九〇 … 止め

仁川米豆取引所　廿九日の十一月限

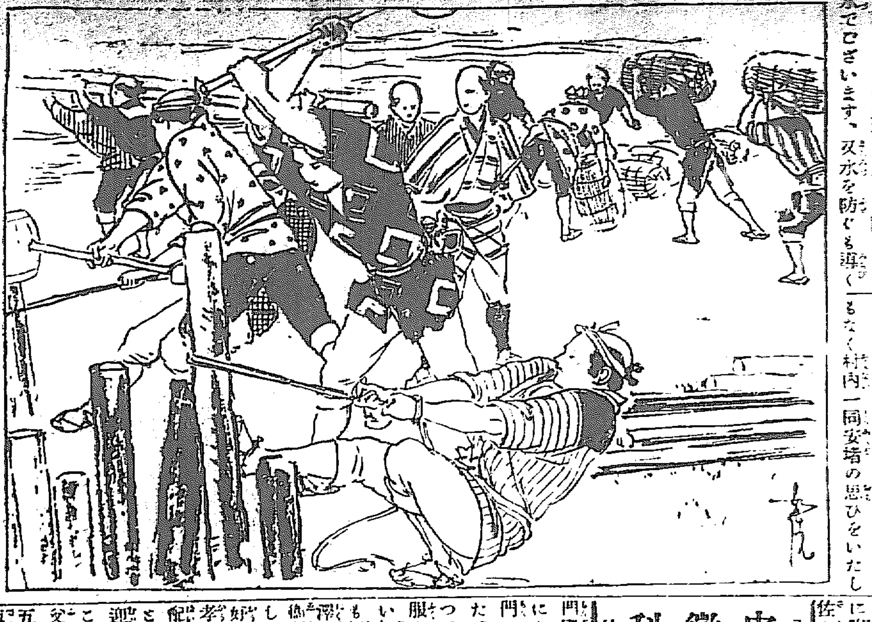
（内節） 八圓八十三錢 出め 八、七八 二高　（五節） 八圓八十八錢 高値 八、七九 一高　買賣取組高 安値 八、七六 四高 の如し

大岡政談　越後傳吉

第百六十八席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

新之助が「私も幼少の時分には親父や兄貴に教へを受けて一通りは學びました。之は家の秘傳で滅多に他人には傳へない所のものでございます。甲州流の築城法の中に水を導いて土を崩し、土を固めて水を防ぐといふ二法がある。甲州では石垣を疊上げて據は築かない八花形の據は陣營同様で土手を築き掘を廻らしました許り。この土手を崩すも固めるも水でございます。又水を防ぐも導くも土手の築やう一つで之は只玆で申した所でお分りにはなりません私にお任せ下されば昔し覺えた甲州流のやり方で一つ立派に和泉川の堤防を築き立てゝ御覧に入れます」承はつて喜んだのは傳吉「イヤどうも御淳志千萬忝けなう存じます、初めて伺ひました貴方は多田の若様どうも只今まで失禮をいたしました尤もお由緒ある方とは存じましたが」新「御冗戯仰しやつちやアいけません多田の若様なぞ仰しやられては恐れ入ります、今は富田屋の食客で、何しろ私にお任せ下さいまし」傳『何分願ひます」といふので玆で新之助が富田屋へ斷つて傳吉の宅へ引移り、改めて人夫を指圖いたして和泉川の堤防を築立てました。前後の通り堤防はむつかしいもの杭の打方が大切ださうで、多田新之助が指圖いたして杭を打ち土俵を積み、只今と異つてコンクリートなどといふものはない時分、石で周圍を固めて行く、日數百日かゝつて美事に落成いたしました土手の上は三間幅で車が樂に通る。傳吉の喜びは申す迄もなく村中一同新之助の技倆に敬服いたして居ります。其秋に至つて水が出ましたが堤が堅牢でございますから氾濫の憂ひもなく村内一同安堵の思ひをいたし傳吉の恩を喜ばぬものは一人もございません、人呼んで之を傳吉堤といふ、領主戸田能登守之を御聞になつて默つて居る譯にはいきませんから傳吉を呼出して御賞美、相當の御用金をば御下渡しになり、尚又公役を以つて堤を延長いたし和泉川七里に亘つて堤防を築き立てました。其處で新之助を戸田家へお呼出しになつてお目通り仰付られる、上々の首尾でございますから富田屋長五郎も喜こんで居ります所へ日野屋藤右衛門から手紙が參りました、長五郎が見ると[illegible]の大難一件[illegible]八州の[illegible]關口清左衛門[illegible]たといふのは[illegible]ましたのを慶長金といふ。五代將軍綱吉公の時改鑄して元字金、寶字金といふものを造りましたが之は金座役人の荻原助右衛門が瞞著かして鑄造したゝめに金質が至極悪い、六代將軍が之を改良しようとして乾字金といふものを造りましたが之は一般に行渡らずにしまつた、それを八代將軍吉宗公が大岡越前守の建言に依つて改鑄御出されましたのが享保金といふ、之は家康公の造られた慶長金よりも優れて居るといふ位ゐで、この元字金寶字金の贋金を八州二箇の關口清左衛門が造つて鷲の宮の大助と二人で使つた、之を八州一箇の佐々木孝之進が知つて居りますから關口清左衛門かどうかして佐々木を罪に陥してしまひたいと考へて居た、佐々木孝之進も内々代官伊奈半左衛門殿へ申上げて置いたから注意人物になつて居ります、その關口清左衛門が人もあらうに大助の家で殺された、大助といふ奴は人殺しの兇狀があつて贋金を使つて、其上御用金を著服して居ります、壁へやうのない悪い奴、此奴が殺されたのは上に於ても好都合、召捕へて調べて怪我人の澤山出るよりは其方が宜いから清左衛門大助は切られ損、切人は構ひなしといふ事になつた、之は新之助の好運でございます、又一つは佐々木孝之進の骨折にも依る所、それで心配はないから早速歸つて來るようにといふ藤左衛門の書面おきみからも迎への狀でございます、長五郎も喜こんで新之助に見せる、新之助も親父の心遣ひの今更乍ら忝けなく、長五郎一家に暇を告げ厚く禮を述べ、傳吉にも別れを惜しみまして越後高田を出立いたし大手を振つて幸手宿の我家へ立歸つて參りました



消毒防臭はアイセル

入院隨意（診察夜九時迄）
皮黴科
皮膚病　黴毒　淋病　膀胱病　生殖器病　機能障碍
日曜祭日午後二時迄
京城明治町二丁目（旧本町通）
佐藤醫院
（電話一七一三番）

入院隨意
京城南大門通三丁目（藤本洋店横入る）
胃腸病院
電話一六五九番
院主　佐々木杏造

賞讃を博せるマラリヤ特効丸
本年は例年の倍數製劑候處八月末に全部賣盡し更に多數製劑仕候有様にて是れ全く各位の御愛顧の賜と深く御禮申述候
尚ほ此上とも品質本意を主旨とする當房各製劑品マラリヤ特効丸同一に御引立程奉願上候
龍山（電話三二一番）
林藥房

三升の白眼

樂屋番新七瘧を惱む事　三升白眼にて呪ひ落す

松本幸四郎談

市川流は荒事でその名を高くしただけありまして、その荒事には靈驗がある樣に考へられたこともあるのでございます、これもその中の一つでございますが文化六年六月十二日から市村座の夏狂言になりまして一番目は『日本振袖始』と云ひます大名題でございました之は近松門左衛門の名作で神代のことを材にしました淨瑠璃でございます、その中の素盞鳴尊を七代目市川團十郎が勤めたのでございます此時樂屋番に新七と云ふ者が居りまして瘧を煩つて藥を用ゐたり呪禁をしたり色々しましたが兎角驗がなくて大變に惱んで居りました。同職のものが氣の毒になつて三升樣に呪禁して貰つたら、速やかに治らうと云ひましたので、それも尤もと直樣新七は三階へ上つて見ますと恰度三升此時、素盞鳴尊の衣を著けて扮をやつて居ります處でございます。新七それへいざり寄つて、おこりで誠に難儀をいたしますから何卒一つ呪禁をなすつて落して頂きたいもんです、とお頼みしますと、三升心得たと云つて帶して居りました劍を抜きまして新七の頭を三遍ばかり撫でまして、その儘劍を持つて、市川流荒事のりきみをいれてハッタと白眼みました。新七その白眼んだ勢に思ひはずぞおつこしたと申します。誠に有難うございましたと一禮を申し述べて歸宅しましたが此から瘧が落ちてけろりと本復しましたさうで誠に奇特だとその頃云ひ囃したさうでございます。此折の役割は巨旦將來が松本幸四郎、蘇民將來が源之助女房いほと機稻田姫を田之助、稻田姫姉岩永姫後に八岐の大蛇が澤村四郎五郎うけもちの長と天津兒屋根の役が門三郎であつたさうで此四郎五郎が岩永姫で御劍を呑む處が大出來で喝采を受けたさうでございましたので、さまで受けなかつたものとみえまして十二日打つた後二十四日から大内鏡に代つたと申します此時の二番目は『御祭禮端午帷子』と云ふ夏祭の狂言の作り替で此は矢張り大内鏡の時も代へずにやつたと申します此はつまり心力の感應で、病氣を癒した話でございますが、私は此心力と共に發達した科學で研究した醫藥を信仰しますもので、ミツワ家庭藥は私の信仰して居りますものゝ中では有勢なものでございます。ミツワ家庭藥には三十餘方ございまして如何樣な病氣の藥も揃つて居りまして製劑責任者は石尾藥學士で奏効が確實ですから病氣の際には直ぐ此を用ゐて重らない中に治して了ふに限ります。私は地方巡業の際には常に此を持つて參りました弟子達の病氣なぞには必ず此を用ゐます。此ミツワ家庭藥の本舗で發賣して居りますミツワ石鹸は皮膚の粗糙で荒れ易く皮脂の分泌の多い日本人が安心して用はれます。日本人の皮膚に適した唯一の化粧石鹸でございます。

▲中村吉右衛門曰く　夏の鬱陶しい暑さから漸次涼しさに向ひますと悲しいこともないのに泣き度くなつたり一思ひ思ひして厭世的になつて精神が弱々しくなつたり又記憶が不良くなつたり雜念が起りに起つて物事に專念になることが出來なかつたりすることがございますが斯樣な際にはミツワ人蔘錠をお用ひになるに限ります。之は[illegible]人蔘を學理から研究して錠劑としましたものでございます。

（ミツワ文庫四〇九）

宮内省 皇后宮職 各宮家 御用品
最も美容に經驗ある方が初秋の今を殊更ら缺さず
クレームレートで
化粧するのは何の爲め、それは脂を防ぎ汚れを去り肌を滑かに色艶をよくするには＝クレームレートが一番よく効き一番品がよいからです
▲最新化粧法▽
クレームレートを附けた上へ今度平尾商店で發賣したレート紙白粉をお召しになると自然に優美な薄らとした化粧が出來ます
レート化粧料本舗　東京・大阪　平尾贊平

新提供
消化と毒けし
仁丹の四季容器
妻ようじ入、鏡、爪すり兼用　仁丹三粒出し
金言　財集まれば人衰ふ（ミルトン）
（仁丹五十錢包に無代添付す）

内科　小兒科
入院隨意
京城日出小學校前
多々見醫院
院主　醫學得業士　多々見五郎
電話九四〇番

入院隨意
外科　皮膚花柳科　泌尿生殖器科
京城永樂町二丁目
安部醫院
診察時間　午後九時迄
院主　安部[illegible]

平壤名産
ピンス子持栗
滋養豊富　風味佳良
弊店製品は共進會々場平安南道賣店に於て出張販賣致し居り候間是非御立寄り被下度休憩所の設備も有之候
平壤　秋鹿商店　電話五四四番

露西亞物産雑貨一式
歐米洋酒食料品
北鮮産石鍋石器類
元山府仲町
西澤商店
電話四六四番　振替京城二七四九

京染
取次　西陣織物各種　絹布　白生地
京都　たまや出張店

資本金　五百萬圓
頭取　安田善三郎
京城本町壹丁目
株式會社　百三十銀行京城支店
電話五八番　振替貯金京城一九四番
銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先は内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

最上醤油
天下一品
芳香風味
平壤　内田醸造
上〇ヤ最上醤油味噌
醸造元　平壤泉町　内田醸造所
電話一二三番　振替京城一九二四番
支店　龍山漢江通郵便局前　平北定州城外　安東縣市場通八丁目

比較は最良の撰擇法なり？
サクラ正宗
サクラ正宗
京城明治町一丁目
山邑京城支店
電話八四[illegible]

診察時間　自午前九時至午後六時
初診の御方は可成午前中
京城長谷川町一丁目（朝鮮銀行裏門前）
シメノウチ歯科醫院
電話八三一番

●平板引締平

●正米

▲二十九日前場

[illegible]

京城日報

第三版

年中無休刊 (祭日翌日休刊)

發行所 合資會社 京城日報社

朝鮮開發の五年

五 財政と金融(九)

金融機關の發達(三)

朝鮮銀行

▲財政業務 韓國政府の國庫事務は嘗て第一銀行之を取扱ひたりしが韓國銀行創立と共に同行は之を承繼し、更に併合後京城本金庫に引繼ぎ一切の國庫金を取扱ふこととなれり、京城本金庫は明治三十九年初めて設置せられ日本銀行の委託を受けて第一銀行之に當り、鮮銀創立と同時に之を承繼せしものとす。現在朝鮮に於ける帝國金庫の數は本金庫一、支金庫二十三にして内鮮銀の本支店出張所の取扱に係るもの十一、農工銀行を代理店とするもの十二、普通銀行を代理せしむるもの一を數ふ。

朝鮮の貨幣整理事務に關し朝鮮銀行は創立と同時に第一銀行より引繼ぎたるが、整理事業も著手以來既に六星霜を經過し、殆ど舊貨の全部を回收し、新貨幣は到處圓滿なる流通を見、茲に一段落を告ぐるに至りしを以つて四十四年三月之れを閉鎖し其任務の完了を見たり。同行が事務承繼以來整理部閉鎖に至る迄に散布したる新貨幣は銀貨百九十四萬七千五百圓、銅貨十三萬一千七十圓合計二百七萬八千五百十七圓に達す。然れども同行は貨幣整理事務閉鎖の後と雖も、金庫事務の一部として別箇の貨幣整理事務を處理しつゝあり。即ち明治四十四年三月整理部閉鎖以後大正三年十二月に至る間同行の回送を受けたる帝國貨幣は金貨百九十萬圓、銀貨四百六十七萬圓、銅貨十三萬八千五百圓にして同行より造幣局に回送したる舊韓國新舊貨幣は合計一千一萬六千六百八十餘圓なり。

帝國政府は併合の翌年即明治四十四年度以降朝鮮に於ける鐵道の敷設港灣の改良道路の開鑿等諸種の事業に對し必要とする資金五千六百萬圓を限り公債を發行し又借入金を爲して之に充つるの計畫を立て朝鮮事業公債法を發布し四十四年四月一日より之を施行する事とせり。然れども當時内外の狀勢は新たに公債の募集を許さゞるものありしを以て政府は先づ鮮銀より事業費の借入を爲すの方針に出で鮮銀之に應じて貸上を爲したること前後六回金額合計二千五十九萬餘圓に及べり

朝鮮銀行の政府に對する資金融通は單に貸上金のみに止まらず又政府の發行に係る公債を引受け其募集に應じ又は買入を爲したること尠からず、又地方公共團體に對する貸出に努めて地方自治制の運用に便じたること尠しとせず

大共進會 出品概觀(十四)

第一號館(工業)

第六部工業は水産に隣りて第一號館出口に至る三百三十三坪の地域を占め第二十三類より第三十一類まで九類に別ち更に中央試驗所及び工業傳習所の一劃を包容す

▲織物及び其製品

第一號館入口農業部の陳列戸棚と對せる南方の大八角型硝子戸棚は平壤染織所の特別陳列にして中に姉妹に扮したる朝鮮美人の人形あり、其衣裝は同所の製作に係れる絹織物にて鮮人向として何れも特種の意匠を凝せるが中にも緞に模樣を織り出せるの如きは新しき試みとして鮮人間に多大の好評を博し居れり、又其南手なる京城織物組合の特別陳列戸棚にも鮮人の嗜好に適せる各種の新意匠の紬布類を並べり、中央通路の南手より順次陳列戸棚に沿うて廻覽せば李王職美術品製作所の紬織物、尙州及び永興の紬、忠淸、慶北並に咸北の苧布、麻布、慶南の綿布等何れも進歩の跡著しきを見る可く、織物製品としては安州の刺繡最も人目を惹くべく、其他京畿第一の機織家金德昌の品、輸入防遏の功少からざる京城機組合の紐類等亦一瞥の價値ある可し

▲陶器及び硝子品

之れより中央の通路に出づれば北手は第二十四類窯業製品にして三和高麗燒(鎭南浦)漢陽高麗燒(京城)平壤磁器株式會社等の特別陳列ありて數寄者の歩を止めしめ、また京城、仁川、釜山の各種硝子製品は未だ精良の域に達せりとは謂ふを得ざるも其の前途は頗る多望なるを見る可し、

▲金屬及玉石製品

窯業類の東方は第二十五類金屬及び玉石製品にして織物類の一部と相對し平壤染織所の陳列戸棚と並べる北手の八角戸棚には二個とも李王職の特別陳列あり其一個は家内の留守に三人の兒童が貴金屬器を引き出し喜戯に耽れる狀を寫せるものにて其器は何れも同所の製作たること謂ふまでも無く、面白き趣向なりとて却々の評判なり、其他朝鮮釜及び眞鍮製品は朝鮮人向きの日用品として殊に内地の觀覽者に珍らしがられ、又玉石細工にては京城の大理石細工、咸南の玉、全南及び全北の蠟石細工等何れも振へるが玉及び蠟石細工の如きは内地の觀覽者に取りては恰好の土産物なる可し

家庭博覽會後庭に於て 飛行大講演會

卅日午後八時卅分開會

帝國飛行協會飛行家尾崎行輝氏は愈々十月一日を以て京城の大空に飛翔せんとす。我社は其前夜即ち三十日午後八時半より飛行觀覽者の爲めに豫備智識を與ふべく飛行大講演會を催す講演者及び演題左の如し

飛行界の發達と其將來

帝國飛行會主事 海軍少佐 澤柳猛雄

澤柳少佐が飛行界に關する日本有數の學者なる事は人の知る處なり氏は本社の請に依り此の演題の下に航空機は如何なる發達を爲しつゝありや、其構造は如何、操縱術は如何、而して之が軍艦の如く汽船の如く汽車の如く發達し全く人間の力に依りて空中を征服し得るは今後幾許の時日を要すべきやの諸問題に就て最平易に明快に講述せらる

家庭博覽會入場者に限り聽講し得べし

斯の如き大講演は再び聽くの機會あらず滿員にならざるうち來場せらるべし

閑餘隨錄

大谷光瑞

一、秋色(承前)

ポプラ又黄葉に可なり此樹北歐に多し北歐の秋色は唯此樹あるのみ七葉樹又佳なり胡桃之に同じ本邦のケヤキ黄葉觀るに足る其他の山間雜木に至ては一々名を列擧するを煩とす果實亦秋色の美あり此美は橘柚を最とす白香山の句に此『包霜新橘萬株金』と云ふ實に然り又柿樹の紅葉紅果兩ながら佳也村舍の秋色を領する冬青の一種にウメモドキ(アイレックス、シーボルヂー)と云あり霜後葉謝して紅子枝上に滿ち春花を欺くあり南天燭と共に林園此樹なかるべからず花に至ては秋色の本領に非ずと雖も菊花の霜に傲るは既に春花に對し一敵國をなせり其抑蘆花は江畔の秋色として捨つべからず秋景の詩題として古より多く之を出せり夜色に至ては秋、春の右に出ず中秋の明月は周年比するものなし月光は强烈也故に微雲微靄の之を蔽ふも亦暖和の景を得と雖も月色に至ては淸光玲瓏たらざれば不可也『春宵一刻直千金、花有淸香月有陰』と云も花を除却せば陰月朦朧は睡眠りを招くのみ花に配して始て佳なり秋は唯月色而已を賞す雁唳蟲語の如きは有るも可無きも可李白の『玉階生白露、夜久侵羅襪、却下水精簾、玲瓏望秋月』は褒語なれ共秋月の快を十分に寫出せり月光紅葉の外稻穿揚に登り村々歡樂の聲あるも亦秋色に見るべからざる景とす太平の秋色は田家樂に於て始めて之を見る秋色既に美なりと雖も山水を須て始て其美を大成す我邦山水に富み秋色に於ては宇内に冠たりと雖も之を印度カシユミルの秋色に比さば猶下位に甘せざるべからず、カシユミルの美に至ては既に山水の條下に記せりこの地の秋色は楓樹にあらず漆樹にあらず烏桕に非らず櫨葉に非らず實にプラタナス、オリエンタリスなりとす此の樹は東歐羅巴、西アジア等を原産地とすれども今は世界一般に栽培せり其生長の迅速なると巨葉繁茂し能く綠陰をなすにより歐洲の公園及び街道の行樹の如きは皆之を用ゆ又煤烟に對する抵抗强きを以てロンドン市中の行樹は多く之を用ゆ我邦も亦東京大阪等近時盛に之を植う上海の河岸の行樹は皆是なり然れども決して紅葉せず黄葉すと雖も美觀をなすに足らずして凋落す然るにカシユミルに至ては獨りこの紅葉あり紅黄淺深濃淡各相稱ひ最も美觀を呈せり特に平川の水澤に適するを以てアクバル大王の移植せし巨木猶存し周圍二十五尺高さ百餘尺の者頗る多しこの紅葉をなすの理に至ては溫度濕度光線に加ふるに空氣の淸澄を以てするならんか我其故を知らずカシユミルの地秋色何れも佳なりと雖もシユデプールとスリナガルとダル湖の三つを第一とす我始めて明治三十五年カシユミルに遊び秋色を賞し其美に驚き爾來夢寐も忘るる能はず後四十二年再び之を見得るの遊を誤らざるを確め昨年印度に遊びし時は季既に遲るるを以て之を訪ふ能はず爾三年の間に又之を問ひ秋色の美を觀んと欲す(未完)〔九月十日旅順に於て〕

模範的殖民地

クラーク氏の朝鮮觀

釜山港

今吾等の目擊せんとするは全然今日の朝鮮にして安眠一夜翌朝釜山港の見物に出掛けたり人力車は整頓せる街路を爽快に馳せたり第一に注意すべきは朝鮮官憲は釜山港の擴張、改善に腐心し近き將來に於て二萬噸級の汽船を碇泊せしめ得可しと

なり、日本人は此港を亞細亞大陸に於ける商業上の門戸たる根據地と爲せり、此目的を以て企畫せる各方面に亙れる作業は著々進捗し將來擴張す可き商業に對する諸種の準備を爲しつゝあり、官設鐵道は釜山より京城を經て安東縣に至り奉天、北京、浦鹽、莫斯科に行き得る南滿鐵道に連絡せり、又朝鮮東海岸に於ける有望なる元山港に連結する支線は既に開發せるのみならず其他數線の鐵道支線建設の計畫ありと

朝鮮に於ける鐵道は廣軌式にして日本本土の軌道に比し客車の緩和なるを覺えたり、釜山は一瞥の裡に日本人が朝鮮人より多數居住するを知り得可し、在住朝鮮人二萬三千人に對し日本人は二萬六千人ありと云ふ勿論日本人は既に古くより同港に移住し居れりと傳ふ『朝鮮人上流社會は一般に商業を嫌忌し能ふ限り遊惰を好む風ありと聞きしに事實は適惜なく實現せられたり、釜山に於ける日本人居住地は全く日本本土の一部と同じく淸潔にして能く整頓するに反し鮮人居住地は鄙陋、不潔、塵埃多く凹凸甚しき街路の兩側には小なる店舗不規則に列び商品は其の前に敷きたる莚に陳べられたり而して人民は一般に希望も計畫も無く如何にも緩漫に見えたり然れども現今數年前に比較すれば一般狀態進歩せりと雖も猶ほ一層改善を要す可き餘地ありと覺ゆ

汽車中の感想

吾等は汽車にて京城に出發せり、吾等の乘れる列車には食堂車の設備ありて其の整備せる食事は一圓乃至一圓二十五錢を要し料理の如きも其母國に比すれば多少遜色在りと雖も價なるを想はゞ必ずしも劣れりと謂ふを得ず、半島の地勢は日本に酷似したる點あるも谿谷間に於ける平原は稍擴大なり、而も利用し得可き土地は悉く耕作されたり、鐵道旅客は一見のもとに日本政府指導の下に植林事業の進捗しつゝあるを知る可し列車の進行と共に數百の小山、文學的に云へば數千の暗黒物の散見するあり、之れ永く荒蕪に委せられたる小山を樹林に回復せんとする苗樹(一松、柏、"樅"の殖樹)にして此處彼處に殖林事業の經營せられたるなり、朝鮮は古代には樹木に富みたるも歷代苛政の結果最後に於ける材木は數世紀前に伐採され、爲に蠻の背の如き禿山となれりといふ、故に朝鮮には林木缺乏せるのみならず、降雨は往々洪水の原因を爲せり、今や新政の下に殖林は獎勵せられ殊に一千九百十一年と同十二年の二箇年に亙り千六百萬本の植樹ありたりと、後年引續き夫れに倣り植樹行はる可し當初は朝鮮人の盜伐を防ぐに甚だ困難なりしも日本官憲の周到なる方法に依り完全に抑遏し得たりと(完)

驚く可き大廉價 五版出來

澁川玄耳先生著 天金上製函入美本 紙數約一千二百頁

藪野椋十 日本見物 世界見物

合本縮刷

七畫伯の挿畫 不折、春挙、百穗、柏亭、未醒、孟郎、樂天 外數葉挿入 寫眞版木版數十挿入

本書の內容 日本之部 東京見物 大阪見物 京都見物 奈良見物 鎌倉見物 朝鮮見物 世界之部 英國見物 米國見物 獨逸見物 佛國見物 露國見物 伊國見物 支那見物

正價金壹圓五拾錢 郵税八錢

夏目漱石氏の序文の一節 夏目漱石序 本書 ご 椋十先生の『見物』が朝日紙上に現れたのは余の入社と前後した爲め且は其筆致が余の『猫』に似て居る爲め掲載の當時は漱石だなどと云ふ評判が八釜敷かつた。餘計なお世話を燒かれた爲め、世話である。餘計なお世話を燒かれた爲め、椋十先生は余に對して『どうも御迷惑で…』と云ひ、余は椋十先生に向つて『どう仕りまして』と云つた。然し此『見物』がそれ程『猫』に似て居るなればまあ兄弟分の間柄なんだらう……

玄耳先生の兩見物は一代の日本及び世界を受けて版を重ぬる既に廿幾回其の文章の輕妙なるは觀察の奇警なるとは熱狂的歡迎を博せり 彼の一膝栗毛も遠く及ばず 九に我文壇に儔ひ 唯一の激賞せらる 是れ文學なり今回縮刷を合本し裝幀を新にし訂正を施し空前の大廉價にて發賣す 諷刺

發行所 東京神田錦町 誠文堂 賣捌 大阪屋號書店 巖松堂

再版出來

朝鮮彙報 共進會記念號

再版出來

朝鮮彙報共進會記念號は發行以來聲價江湖に高く忽にして初版の品切を來し今や數千部の再版を見るに至れり本誌は始政五年記念共進會の開催に際し總督府に於て朝鮮彙報の特別號として發行し最精確豐富なる材料に依り共進會の詳況の外朝鮮百般の事項に亙り併合後五年間に於ける進歩發展の事績を細叙す

本誌は共進會觀覽希望者は勿論苟も朝鮮の實況を視察研究せむとする人士の好個の指針なり

主要目次

▽口繪 共進會場全景、各陳列本館、舍利塔三體佛像、慶會樓等十數種

▽挿繪 朝鮮各地風俗、景勝、建築物、產業教育其他施設狀況等百有餘

▽記事 共進會、歷史、地理、人口、風俗、行政、教育、宗教、財政金融、交通、產業、貿易、司法、警察及衞生等の諸章に分ちて併合後五年間の施政の進步、產業の發展、經濟力の伸張等朝鮮の實況を精細に敍說す

▽附錄 外金剛記事、朝鮮經濟力の進步を示す統計及最近五年司法成績の統計を掲ぐ

●本誌は特に表裝に意匠を凝したる體裁好き二百八十頁の大冊子にして代價は特に普通號と同じく金二十五錢とす

●本誌は京城其の他各地書店にて賣販す

讀者愈激增▼先號悉賣切▼

學生

▼九月十五日 大禮記念 別刊 名所舊蹟號

十月號 定價二十錢

釣ったく 主筆 大町桂月

▼戰争と商業 東京 ▼時の審判 西村辭天 ▼衣笠城 大町桂月

落第生問題 高田文相 ▼學生新聞 ▼グラフィック ▼職業指針

入學試驗準備 深井 ▼諏訪にて 北アルプス

爆彈でたる勇士 一戸中將 一堅壘を陷れ

フットボール 吉川博士 ▼納豆賣 ▼敗戰の露國 ▼より歸りて

▼野球心理 梅戸鐵 ▼即位 ▼英文タス 吉岡教授

熱狂的歡迎●注文如山 紙數二百五十頁 三色版三枚 寫眞版八枚 折込二百餘 定價金三十錢 郵税二錢五厘

東京神田 富山房 振替一一番

大阪期米特電(廿九日)

九月限 千四百五十石

十月限 七千百五十石

十一月限 三萬八千百石

出來高 五千三百五十石

列強大戰

▲二線對戰

公報に曰くアラスの北方にては形勢變化なし敵軍は曩に失へる陣地に對し微弱なる逆襲を試みたるのみにして同地にて既に獲たる捕虜總數は一千五百名に達すシャンペーヌにては戰鬪間斷なく行はれ我軍は今や廣く延長せる第二全線の敵陣地に向つて對戰しつゝあり我軍は數多の大砲を鹵獲し或は爆發せしめたるが鹵獲せる銃砲及び機砲七十餘門に達し其內二十三門は英軍の鹵獲せるものなり（巴里電報）

▲英軍捷報

フレンチ元帥の報告に曰くユービの西北に於て英軍は戰鬪に於て敵を擊退し敵に多大の損害を蒙らしめたりルーズの東方に於ける我軍の攻擊は著々効を奏し將校五十三名、下士卒二千八百名他二十二、機關銃二十二を鹵獲せるが其他敵は多數の軍需品を遺棄せり（倫敦電報）

▲露軍進出

非公式の報道に依れば露軍はルツク西面に於て進出を繼續し遂にコウイルに達せり墺軍はブリーデーを撤退せり（露都電報）

▲英國態度

外相サー、エドワード、グレーは葡萄牙利が挑戰的態度を取るに於ては英國は遠慮なく巴爾幹に於ける友邦を助くるに至るべしと切言せり（倫敦電報）

▲伊艦災害

ブリンデイジより巴里に達したる報道に據れば伊太利國戰鬪艦ベネデツト、ブリン號に火災起りて遂に爆發したるが將校八名下士卒二百七十九名は救助されたり大將ルビンテウエリンは此の珍事の爲め死亡せるもの〻如し『因に戰鬪艦ベネデツト、ブリン號は排水量一萬三千二百十四噸、一千九百五年の進水、十二吋主砲四門、乘組員八百十一名なり』（紐育電報）

▲聯合軍希臘援助

倫敦クロニクル來電に依れば聯合國公使は二十六日希臘政府に對し若し塞爾維又は希臘が攻擊せらる〻場合には聯合國は直ちに砲兵隊及び他の軍隊を上陸せしめ且つ希臘に必要なる財政上の援助を爲すべき旨通告したり（紐育電報）

▲佛軍數地占領

巴里發後方佛軍は敵の必死的逆襲ありしに拘らずアートア及びシヤバニー地方に於て更に若干の地を占領せり（紐育電報）

◎國體問題

特別機關設置

北京二十八日午後の發電に據れば參政院第三回請願書十五件に就き孫毓筠等數名より國體解決を特別機關に據る可しとの理由を述べ次で梁士詒は特別機關組織方法として各縣より一名或は數名を選出し之を各省の或る特別區域の地に集め區々に投票す可しと述べ（這は政府の意志を受け梁士詒が發言せるものと思はる）最後に王熊鄰の發議せる公民請願書は既に參政院が其の趣意を採用したるものなれば審査に附する必要なし我が參政院は特別機關組織方法を起草すれば足れりとの說大多數を以て通過し議長は起草委員として梁士詒、王熊鄰等を指名せり（東京特電）

◎間島問題辯明

間島問題に關し帝國政府の辯明は既に小幡代理公使より支那政府に詳細說明したる筈なりされば該問題は支那政府も恐らくば正當にして理義を明細にせる帝國政府の說明に滿足するならん若し尙ほ不滿足とするも特に之が爲めに交涉を開くが如きことなし而して帝國政府は間島は滿洲の一部として裁判問題其他に於ても全く條約に依る處分を依然繼續する方針なりと（東京特電）

◎參政官と軍刑法

陸海軍參政官が陸海軍刑法の適用を受け政事運動に關する能はざるは參政官設置の本旨に悖るより是が撤廢に就き調査中の處這回愈よ之を撤廢するに決し今期議會に提出の筈なるが多分法律案として提出さるべし

◎勳二等以下叙勳

總督府勅奏任官叙勳者

二十九日午前十一時宮中南溜間に於て勳二等以下の勳章奉授式を行はせられたり總人員三百八十五名右の中朝鮮總督府勅奏任官の叙勳者は左の如し（東京特電）

朝鮮總督府土地調査局長 正五位勳四等 鈴木穆
同學務局長 正五位勳四等 關屋貞三郎
同農商工部技師 正五位勳四等 中村彥
同忠淸南道長官 正五位勳四等 小原新三
叙勳三等（各通）

共進會

◎三井男釜山發

三井男一行十三名及び中橋德五郎氏古市公威氏等二十九日夜滿鮮急行列車にて入京す（釜山特電）

▲總會へ御寄贈金

今回赤十字社及び愛國婦人會朝鮮本部總會開催に就き李王殿下より兩總會に對し各千圓宛の御寄贈あり又李埈公、李堈公兩殿下よりも同じく各百圓宛の寄贈ありたり

▲出品審査進捗

共進會の審査は既に第二審迄終了し更に最後の第三審に著手する次第なるが其前に當り審査部長會議を開くべしと

▲出品賣約盛況

共進會の出品物賣約は二十七日より開始したるが開始當日の賣上高は二千七百圓にして二十八日は二千八百圓なりと

▲山縣部長觀察

山縣赤十字社朝鮮本部長は二十九日午後吉安赤十字社參事、福手同理事、大橋朝鮮支部主幹を隨へ總會場を視察したり

▲各道へ招待狀發送

京城協賛會は各道に對し共進會の開期中通用す可き招待狀を一道五十部の割合を以て發送し道長官の指定したる人々に配布方依賴せりと

▲京城案內台覽

京城協賛會は特製京城案內百部を十月一日開會式の當日御臺臨相成る可き閑院宮殿下の臺覽に供したり

▲鐵道協會團體入京

鐵道協會團體約百名は廿九日朝下ノ關發連絡船にて來鮮三十日午後五時臨時列車にて入京の豫定なり

▲共進會揭示板

京城協賛會にては近々南大門外本町京城電氣會社前及び鍾路に揭示板を建て日々共進會及び協賛會に關する事項を揭載す可しと

◎中村滿鐵總裁入京

滿鐵總裁中村雄次郎男は改野川上兩理事と共に共進會開會式及び鐵道千哩祝賀會參列の爲め二十九日午後七時半南大門驛著入京せり一行には前記諸氏の外上田恭輔、栗山虎久（共に滿鐵社員）の兩氏あり總裁外三氏は朝鮮ホテルに、改野理事は野田東拓副總裁社宅に投宿せり、同列車にて關東都督府遞信管理局長加藤顏次郎氏も入京したり、尙中村總裁一行は來月四五日頃まで滯京すべし

◎京畿麥作狀況

京畿道に於ける本年度の麥作は作付反別大麥五萬三百六十一町步小麥一萬六千五百八十七町九反步裸麥千八十町二反步計六萬八千廿九町二反步收穫高は大麥四十一萬三千九百卅七石小麥十一萬一千三百卅七石裸麥七千七十一石計五十二萬二千二百卅五石にして之を昨年度に比較するとき反別に於て八千二百六十七町四反步即ち一割二分一厘を收穫高に於て七萬七千二百五十三石即ち一割四分八厘の各々增加を示せり

後藤男爵縱橫談

男爵後藤新平氏は廿八日午前九時釜山着同十時三十分發列車にて京城に向ひたり釜山驛に於て男は本社大邱記者に語つて曰く

予は曾て三四回朝鮮に來遊せる事あるも主として鐵道沿線のみなりしを以て今回は成るべく新らしき地方を視察せんと思ふ而して後十月十日奉天南滿醫學堂に於て擧行せらる〻第一回卒業式に臨場する豫定である

■乃木家再興 に就て予の談として某新聞の書いて居る事は全く予の談と相違して居る乃木家再興の事は聖旨に出る所であつて是れを是非するは亂臣賊子と云ふべきである但し戶籍法や其他の手續上誤れる所があらば其はその職に當る者を責めるが好からう乃木家再興の事は聖旨なるが故に臣民の議すべき處ではない聖旨の奏請者、それは既に聖旨となつて發表された後は尋ねる必要はあるまい

■文官總督論 內地の群小政治家が兎角の批評をして騷ぎ立つたけれど結局寺內總督は彼等群小政治家と共に動かざる重みを有して居つたればこそ朝鮮は今日の發展を見るに至つたのである世間にはよく文官時代に黃金時代にでも化するかの如くに翹望する向きも有るか予は總督の相談をせられた事が有つたが戰爭當時に於て兒玉大將は余に滿洲當時自分は飽まで武官總督の可なるべき事を主張したのであつた今日文官總督として其大任を完し得る者幾人ありやに想を馳せ且つ

■政黨政派の爲めに國家を無視する底の政治家をして此の大任に當らしめ殖民地をして其の野心の餌とし終るの結果に想到せば何人と雖ども容易に文官總督の謳歌を躊躇するに至るであらう現下の日本の政界は根本的の革新を要し最早一黨一派を救濟するの時機ではない予が政界に馳驅するの止むを得ざるが如きは亦政界の不祥事ではあるまいか

吾人は斯く感ぜり

代議士諸君の朝鮮見物

愈々明朝は一行の出發といふ二十九日の午後七時朝鮮ホテルに鮮滿視察團の代議士諸君を訪問すると其大半は何處かに御出掛けで黑須さんと村松さんがいらつしやいますといふ、刺を通じて先づ村松氏の室を叩くと丁寧な挨拶があつて椅子を侑め乍ら霜白の髮を撫でつ〻餘に語る

▲村松龜一郎氏

私は明治三十八年に一度朝鮮に來た事があるが其當時と今日とを比較すれば到底もお話しにならぬ進步である、殊に土木と衞生との發達は驚く可きもので釜山でも京城でも昔しの面目は全く一新された、殊に以前は在鮮日本人中には鮮人に對する態度傲岸を極め、苛酷の待遇を敢てするを見受けた樣だが今日では少しも

▲左樣な弊風 を目睹せぬは嬉しい事だと思ふ、共進會を見物したが朝鮮としては實に立派な出來榮えである、殊に審勢館や東拓、鐵道等の特別館は簡明にして頗る要領を得た處感心の外は無い、僕等が見物した中にも朝鮮人が大分來たが何れも精細に注意を拂つて入念に見物してゐた、彼等の會話は少しも解し能はぬが頻りに話し合つてゐる狀を見るに能かに色々と見物してゐることが解る程度の低い人民を取り扱ふには斯うした計畫が最も必要であると思ふ、また

▲各館を通覽 するに鮮內の產業は異常の發達を示してゐる、第一號館の農業部には出陳品と在來種とを比較してゐるが假令鮮內の半分たりとも斯く改良種が普及し得て立派なものが出來るならば唯だ／＼感歎の外はない……其處へ闖入して羽織袴の一紳士が現はれ僕は黑須龍太郎です、御障りがなくば此處で一緒にお話し致しませうと腰を下す

▲黑須龍太郎氏

僕は松村君と異つて朝鮮は初めてゞす、途中は單に釜山と馬山に寄つて此處に來た丈けだが其他鐵道の沿線を見て朝鮮は四周の風光が內地に比して殆んど相違の點を見出す事が出來ぬ、之れに徵するも朝鮮人は內地人に充分同化し得又た同化さす事の出來る國民だと思ふ、朝鮮に入つて最も痛切に感じたは此一事だが此

▲大目的を達 するには朝鮮人に對しては特別に立ち入つて世話を燒いてやるといふ事が肝要だと思ふ、爲政者は內鮮人を見ること恰も非常に行き屆いた父親か兄弟を遇する如く幼稚な朝鮮人に對しては長じた內地人よりも一層氣を附けて色々と指導しなくてはならぬと共に在鮮內地人も亦鮮人を遇するには兄が弟に對すると同樣手を取り補ひ引いて誘掖する親切と雅量がなくてはならぬと思ふ、共進會に對する感想は松村君と同感で審勢館の如きは殊に

▲面白い計畫 であり趣向であると考へる、然し市中を步いて電車と人車賃の高いには一寸驚かされた、電車といふものは平民の乘るもので最も普偏的な交通機關であるから世界中何處でも安いのが原則となつてゐるが朝鮮は甚だ高價で聞けば人車の如きは共進會に付て特に賃金の一割減を規定したさうだが

▲其れが勵行 されてゐるか何かは知らぬけれど苦情が貰られた料金といふものは馬鹿に高價なものであつた、兎に角交通の高價といふ事は旅客に取つては決して氣持のいゝものではない、其れから米價調節に伴ふ朝鮮米問題は一時議論に上つた樣だが彼の樣な愚論は實現し得可きものでない、殊に實地に此地を視察するに及んでは今の朝鮮に對して最早そんな雛子扱ひなどをす可きもので無いといふ事を覺らぬものは無いだらう、

◎鐵物輸移入高

仁川最近一箇月間に於ける鐵物輸移入は三萬二千四百四十六圓にして前月は三萬四千三百七十五圓前年同月は二萬四百九十五圓なるが前月に比し一千九百二十九圓の減少を見たるも殆ど同額なるは最早や閑散季も經過し需要期に向ひつ〻あるも未だ一般の需要起らず注文品の夥々入荷するのみなるを以てなり前年同月に比し八千四十九圓の減少にて大差無きは此の間の消息を語るものと云ふ可し市場實行きは閑散の事とて挑なく價格は平鐵（厚一分巾五分）十貫目六圓亞鉛引浪板（一枚）三十番尺六一圓十五錢釘長三吋（百斤）十二圓なり

◎秋繭二割增加

本年秋蠶狀況

本年の秋蠶期は蠶兒發生の前後に亙り高溫にして乾燥し壯蠶期に於て降雨頻繁なりしも概して氣候適順ならざりしを以て忠淸北道、忠淸南道、全羅北道、黃海道、平安南道地方の一部に於ては多少病蠶の發生を見るに至り秋蠶の收繭高は前年に比し幾分減少するを免れざるべきを豫想したりしも上簇期に跨り天候順調に復し京畿道、慶尙南道、平安北道地方に於ける蠶兒の發育意外に良好にして繭產額は著しく增加す可き見込みなり八月末日現在調査に依る秋蠶飼育戶數二萬二千九百七十八戶、蠶種掃立枚數二萬六千八百八十九枚にして其繭產額は四千二百二十八石の豫想なり之れを前年に比するに飼養戶數に於いて三分、繭產額に於いて二割七分の增加とす今その地方別累年比較を示せば左の如し

地方別秋蠶狀況

道別	飼養戶數	產繭豫想高
京畿道	四、〇二三	九七
忠淸北道	一、六〇四	八五
忠淸南道	一、一一一	一五四
全羅北道	一、四七三	三一四
全羅南道	一四二	六八
慶尙北道	一、七六六	二七〇
慶尙南道	一、六三八	五八〇
黃海道	一、七九九	二九一
平安南道	二、五〇三	二九九
平安北道	五、五三四	一、〇八三
江原道	一、三九五	一〇九
咸鏡南道	二	〇
咸鏡北道	……	……
合計	二一、九七八	四、二二八

備考（此民籍は凡て民籍にて二十八蛾分を一枚となす江原道は報告未着昨年度のものを表示せり）

秋蠶累年比較

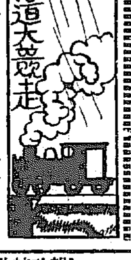
年次	飼養戶數	產繭額
二年	一一、二九三	二、八一一
三年	一八、七七六	三、三三三
四年	二一、九七八	四、二二八

◎民政長官下仁

關東都督府白仁民政長官外隨員六名は水族館觀覽の爲め三十日午前十時仁川に赴くべしと

◎仁川の將校歡迎

仁川協賛會にては三十日午後二時より新に入港せる常磐、日進乘組準士官以上將校を水族館二階廣間に招待し歡迎會を開く由



▲安東縣に向ふ

南行選手 別府八百吉

別府南行選手二十九日朝長春より著水野滿通主筆と倖を連ねて附屬地公園を一周して午前九時四十分發安東縣に向ふ疲勞の色なく元氣旺盛なり（奉天特電）

▲久方振りで朝鮮へ

廿九日朝大連直行、車を奉天で安奉線に乘替へる、又幾かの間に例の如く車を市中に驅り綠葉と草花の新市街公園を一巡した、午前十時奉天發秋の空は晴れ渡つて暖かい日だ、安奉線中滿洲耶馬溪と稱せらる〻山水の景勝地鷄冠山、鳳凰城、高麗門附近を列車が過ぎるとき綾錦とり〴〵な秋草の山には奇岩怪石を成る連山の紅楓が淸澄なる河水に映じ秋色掬すべし、午後五時半安東縣著安東新報同人諸氏の歡迎を享け同七時半鴨綠江の鐵橋を通過し、久方振にて朝鮮に入る（廿九日午後六時安東縣發電）

人事消息

▲志立鐵次郎氏（興銀總裁） 二十九日入京朝鮮ホテル投宿
▲水上浩躬氏（官吏） 同上
▲米井源次郎氏（商業家） 同上
▲コンダー氏（英商人） 同上

◎大阪の參事

△夜之部 假題目未定
△妙生手踊

■警報 九月廿九日午後二時四十二分發……

んと（元山特電）

京日案內

◎普通 一行一回金三十錢（無割引） 每名一回每に金五十錢
◎番外 一回前金六十錢（無割引） 每名一回每に金五十錢

◎店員雇入 二三十歲男洋服の經驗と身元保證ある人四五名入用 本町三、四〇 大矢洋服店 637
▲櫻井町二の一九一本町四交番下る 633
◎洋服に有經驗廿四五以上卅四五迄の外交員至急入用但市內に確實の要證人 長谷川町 高岡洋服店 613
○有利事業譲る 下好時機希望の方は京城本町二丁目柏屋商會迄で御來談を乞ふ 632
◎瓦製造販賣 京城本町一丁目電話一〇五五番 橋商店 510
◎女中入口 官舍、商家、旅館 京城明治町 萬年社 電話一八四四 620
有望なる在滿洲の醫院至急讓りたし 但し年收約七千圓あり 姓名在社 634
◎京染萬染物所 御預品は確に取扱迅速に御届仕候 京城岡崎町七つ角憲兵出張所向側 至極叮嚀 清水堂 606
永樂町商品陳列所坂の上 皮膚病花柳病專門 須古醫院 電話二一〇二番 566
朝鮮土產品は翡翠に限る 朝鮮豆、高麗豆元祖 名產新羅豆 明治町二丁目村井商會取次 電話二三六八番 五五一番櫻井町一丁目 544
◎琴曲教授 山田流山勢流 盲人にて專門志望者此際申込まれ 園田松葉 605
發務總監部通り故松韻先生門人 朝鮮珍菓 精品美味腐敗せず旅價御土產用適 共進會內京畿道廳特賣店用品製造元 松の實餅 漢江美

◎濁酒卸小賣 雇用し三名入用 龍山元町一丁目 電話一五四番 富山酒造場 630
◎菜集 確實の者
季節ご 甘藷 本場いも品質良好 格安に卸小賣り御求めに應ず 龍山大島町卅八番地 振替貯金京城二七三〇番 關根種苗店 614
◎造花 各種京料旅館販賣可仕候 裝飾記章調製御用達 京城南大門側漢陽公園上り 青沼忠榮商店 576
▲牛肉卸小賣▼ 京城南大門通四丁目六番地 元赤松店跡 高橋牛肉店 629
恩給年金類立替 京城御成町 電話二七七番 山口屋 426
朝鮮に二つなき製造工業 主人病氣歸國に付至急讓渡し度し 資金要五百圓純益月百五十圓以上 明治町 明治二丁目 湯淺井小間物店 617
◎移轉御披露 開業仕候間倍舊御引立の程願上候 龍山彌生遊廓中の新地より龍山桃山に移轉 電話三四三番 開盛樓 613
恩給年金類立替 京城武橋町二十三番地 京城日報社北右に入 電話二二八三番 國江商會 425
◎旅館讓る 下宿 市內唯一の場所客京城都合に此際至急讓る（姓名在社） 609
朝鮮諸官廳受驗者必携 作文軌範
京城専修學校教諭安達大壽著 見習受驗者必携の良書 文官試驗作文は二間共本書より出づ 大好評 ◉定價四十錢 ◉郵稅六錢 ◉過般執行の 京城本町 巖松堂發行 振替番號二四五四

新刊書御案內
○井上英和大辭典 井上十吉 二、二〇
○新說無機化學 石川 湯山 三、五〇
○教育法眞髓 河野清丸 一、四〇
○算術教授の新研究 佐藤 一、五〇
○幕府瓦解史 熊田 一、五〇
○金色夜叉（縮刷） 紅葉山人 一、二〇
○刀劍鑑定備考 羽皐隱史 一、八五
○藝術と哲學との間 石坂養平 一、〇〇
○小說「鴨」 佐藤紅綠 一、六五
○男女對等論 福生洋 一、二〇
○色鳥 夏目漱石 一、二〇
○花袋全集 田山花袋 一、八〇
○噫無情 黑岩淚香 一、二〇
○和漢名詩選 松浦政泰 一、四〇
○修養小品 加藤咄堂 一、二〇
○正しき用字法 大町桂月 八〇
○批評の要訣 上田小山 一、七〇
○兩京去留誌 德富猪一郎 一、五〇
○農家經濟の話 山崎延吉 四五
○マッチの棒 岡本一平 六五
○頭を抱へて 鶴崎鷺城 九五
○新式日英手紙の書方 前田寅之助 四五
大阪屋號書店 京城本町 電話二八六番 振替京城二五七三番

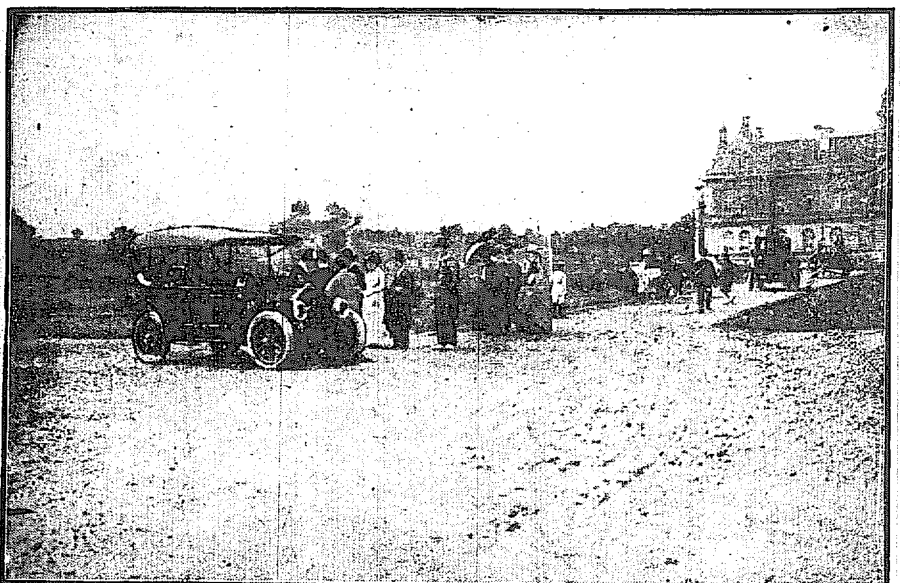
▲求取扱店 府郡一名
勸業貯蓄債券 一圓 郵便貯金 希望者履歷書送れ規定郵送す 東京芝區櫻田備前町一番地 明治產業株式會社

恩給年金類立替 京城本町三丁目四十番地 電話二六一番 博多屋本店 428
旅館 開業御披露 客室清潔取扱親切 市內諸方の出入に至便の場所 南大門外南キワ 電話一〇三三番 南門旅館 599
◎諸建具製造販賣並に表具 新古書畫掛軸種々貿物あり 京城岡崎町七十一番地 庄司建具店 597
◎瓦製造販賣 青竹あり 京城古市町十四番地 電話一三四五番 上田商店 585
◎製造本舖 櫻羊羹 栗羊羹人參練羊羹茶羊羹太白羊羹 京城龍山青葉町 有浦榮堂 584
▲りん病ばい毒 にて困る御方は御出でなさい詳細は本月四日の京城日報を御一覽あれ 京城南大門外 ドラッグ商會 563
◎古着古道具類一般 右は相當價格を以て確實に買受候 旭町一ノ廿一 電話一八一三 クヅ谷商店 509
京城本町二丁目電話二八〇一番 長谷川製箱所 603
▲荷造箱製造並に公箱 小包 寶買 石見堂 619

粛たり賜謁の儀
文武官民の伺候

朗らかに晴れ渡りたる空には、碧玉を薄絹に包みたるが如き白雲斑らに棚引き、澄み切れる秋の氣爽かなる廿九日、畏き邊り特別なる思召により始政五年記念朝鮮物産共進會開會式に御台臨の爲御渡鮮遊ばされたる閑院宮同妃殿下の御旅館なる龍山貴賓館にては朝來より伺候の文武官打ち續き、玄關內に用意されたる伺候署名簿に姓名を自署して歸るもの絶えず、正門前には大天幕を張り歩兵一個中隊警備の任に當り、憲兵數十名亦館の內外に配置されて護衛せるもものものしく、門內東西の池中よりは噴水虹を含んで天に冲し、清く淨められたる庭內の芝生、館を取圍める小山の松樹緑色鮮かなるに秋風颯々と鳴りて、雲間より注ぐ日光の時々雲母のやうなる光輝を投げ、壯厳の裡にも清冷の趣き漲りて見えぬ、

軈て午後一時過ぐる頃よりは當日　兩宮殿下に拜謁の光榮を擔へる文武官、朝鮮貴族、民間代表者等陸續徒歩にて、或は自動車、馬車を驅りて來るもの、引きも切らず、劍光帽影參差として輝きフロックコートに絹帽、或は正裝、袪服せる僧侶、黒衣の法衣豊に著成せる宣教師、天理教神官の烏帽子姿まで混りて肩摩接踵、館の內外は俄かに色めき初めしよと思ふうち、午後二時を過ぐる五分にして寺內總督は夫人同伴、自動車を驅つて參館、ボーイに靴の塵を拂はしむる暇もあらせず、燕尾服の瀟洒たる侍僕に導かれて玄關を入る、つゞいて山縣政務總監は馬車にて、後藤男爵亦車馬にて至り、何れも定められたる部屋に入ると見れば外國總領事の各夫人を同伴して自動車、馬車或は腕車にて來るあり、



華賓相踵で到る＝廿九日午後龍山御旅館前＝

▲來京中の諸名士 大島次官、其他の馬車、腕車を走らすあり、定刻の二時半拜謁者全部の打ち揃ひたる壯觀は實に云はん方なく、第一室には諸外國總領事、領事館、高等官夫人、外國教會代表者等、第二室には總督府、所屬官署、軍師團司令部、李王職、勅任官同夫人、第三室には奏任官總代を始め京城府尹、中樞院贊議、同相當官、第四室には朝鮮貴族、中樞院贊議、憲兵司令部の佐官同相當官、第五室には勲三等以上佩用者、奉迎送係員、民間代表者の順序にて差控へたり、かくて二時四十分、氏名を呼ばるゝに從ひ在京城各國領事官同夫人、外國教會代表者、總督府文官、勅任以上同夫人、李王職勅任以上同夫人、總督府及び在京龍所屬官署、奏任總代及び京城府尹李王職奏任總代、在京龍武官勅任同相當官以上同夫人、軍師團及び憲兵隊司令部佐官同相當官、朝鮮貴族、中樞院副議長顧問、同夫人、中樞院贊議、勲三等以上の勳章佩用者、奉迎送係員、ついて民間代表者としては各宗教宗派の代表者、京城學校組合議員代表者、府協議員會代表者、商業會議所會頭、東拓總裁、朝鮮銀行總裁、理事、京城在郷軍人分會長、赤十字社朝鮮本部代表者、愛國婦人會朝鮮本部代表者の順序にて緞茶色の絨壇敷き詰められし中央の階段より鞠躬如として昇り、閑院宮同妃兩殿下御室の右側入口より內に入り敬禮して更に數歩を進みて宮殿下の英姿を正面五六歩の所に拜し奉り正立して最敬禮を行ふ此時寺內總督御側に在りて氏名を申し上げ奉れば殿下にはそれ〳〵叮嚀なる御答禮あり畢りて左方に進み妃殿下の御前五六歩の所にて最敬禮を行ひ退歩し、御接見室の左側出口に於て敬禮退出し左方の階段より降りて退館せるが此間諸員靜粛、針一本の落ちにし音も聞えんばかりにていとも〳〵嚴粛の裡に式は行はれつ午後三時頃順次馬車、自動車、腕車を驅りて歸途につき四時頃に至りて全く館內は元の靜寂に歸しぬ。

燭光燦たり
龍山官邸の夜宴

狹霧の薄衣に包れたる遠山は紺鼠色に黯ひ、軈て紫に匂ふと見る間に一二滴の雨落ち初めて榮ある廿九日のその日は將に暮れなんとする頃、謁見の儀滯りなく畢を告げ、一時靜寂に歸へりし龍山貴賓館は、再び腕車自動車、馬車の引きつゞきて轍の響も勇しく訪るゝを見ぬ、こは將に開かれんとする寺內總督の主催になる夜會の宴に招待されし朝鮮貴族、文武官の相前後して參會せるなり、當夜の宴は畏くも閑院宮同妃兩殿下、李王同妃兩殿下を首とし李埈公殿下李王家の御一族を主賓とし參せたる朝鮮始政以來稀に見る盛宴にして朝鮮貴族の多數及び山縣政務總監、各部長官、各局長、井口軍司令官、川村師團長、古海軍參謀長、第二艦隊森山、上村兩司令官及び各夫人陪席の光榮に浴せるもの六十餘名なりと聞く、此日李王殿下には陸軍大將の御正服眼覺るばかりなるを召させられ、朝鮮禮裝の王妃御同伴にて午後五時五十分昌德宮御出門、前後を六名の騎馬巡査に護衛され同じく陸軍中將の御正服召せる李埈公殿下同妃その他御一族の馬車と共に順路を龍山に向はせられ同六時二十分貴賓館玄關に御著、出迎の人に擁されて御下車直ちに設けの御室に御入りあり、時に同六時官邸を出發せる寺內總督は同じく金光眩き陸軍大將の正裝にて五つ紋所の禮裝せる夫人同伴李王殿下等の御馬車と轍を接し自動車にて參著す、かくて六時半まで文武官の金色に包れたる大禮服、朝鮮貴族の絹帽に燕尾服を著しそれ〴〵に勳章を佩したるが折柄の秋雨に幌深く垂れたる腕車に馬車に轍のきしりも威勢よく驅けつくるもの絶えず、館の內外に點せられたる電光燦爛として參差交錯相映ずる樣は壯嚴崇高の氣漲ちたる裡にも婉容云はん方なきものあり、かゝる程に定刻參列諸員總て打揃ひや御館の內外は庭前の噴水と蕭々と降りそぼつ秋雨の音の聞ゆるあるのみ、各出入口には警護の憲兵聲を呑んで控へ、各部屋々より洩るゝ電燈の光りのみ煌々たるを見る此の間に閑院宮同妃兩殿下は李王同妃兩殿下御會見の儀嚴かに行はせられ午後七時となるや劉喨たる奏樂の音の東側、金屛風に圍まれたる一室に當てられたる階下玄關突き當りの大廣間、篝灯たる花電燈の下、金屛風立廻され、雪白の布に蔽はれたる食卓の間々に大蠟燭の銀色閃々たる所、正面の御席に陸軍大將の御正服豐に閑院宮殿下、色鮮かなる洋裝召させられたる同妃殿下と共に寺內總督の御案內にて御著席あり、つゞいて李王同妃兩殿下以下何れも定められたる席に向ひ、大夜會の宴は開かれぬ、之れよりは十分隔きに奏樂の音絶えず、鏗鏘として響き、御館の內外には欣喜の色滴り、嬌色溢るゝを覺ゆ、宴酣なる頃各殿下御交歡の御言葉ありて總督より拜謝の御挨拶あり、各殿下にはいとも御滿足の御容子に拜し奉り一同亦御陪席の光榮に感激措く所を知らず歡を盡して盛宴全く閉ぢられたるは午後九時近き頃なりしと洩れ承る

北行選手還る
蹈破す一萬哩當に十八日十有餘時間
彩光燦然凱旋の士を迎ふるに似たり

月の十一日共進會開會に湧き返る京城を後に、最も華かなる最も壯快なる使命を帶び、別府南行選手と時を同じうして

▲萬歳聲裡に南大門驛を出發せし鮮滿臺鐵道大競爭北行選手神崎憲一君は京日毎申讀者は固より滿鮮臺各地方の視聽を一身に聚めつゝ、往復一萬哩の道程を些の故障無く僅々十八日十一時間餘の短時日に踏破し終り廿九日午後八時二十分南大門驛著臨時列車にて最終分岐點たる湖南線を經て歸京したり、これより先き同選手を驩迎すべく南大門驛に參集せる官民は本社員と共に引も切らず定刻

▲神崎選手の搭乘せる臨時列車の向側步廊に到著するや轟々と響き渡る爆竹と共に喨劉奏で出づる樂隊の音は暫時耳も聾するばかりなり、斯る間に茶褐色の旅行服に同じ色の外套鳥打帽子を輕く戴ける神崎選手は溢るゝばかりの元氣を總身に見せつゝ先著の榮譽を誇るかに

▲奏樂裡に跨線橋を渡りて待合室に入りたり、此處には又社章を現はせる大提灯、十數旒の社旗を押立てたる出迎社員の一團あり、再び爆竹奏樂の一齊に鳴り響くあり、やがて樂隊を先頭に選手これに續き悠々南大門通りの街道を練れば沿道群集の一行を見んとて堵を爲すあり、彩光燦然たる崇禮門は宛として凱旋門の戰勝凱旋勇士を歡び迎ふるにも似て感慨更に深く此處を拔けて太平通りに出づれば此處にも彩光燦たる家庭博の電燭は多幸なる選手の歸還を祝き壽ぶくかに瞬きつゝ斯て無事萬歲聲裡に本社に歸著せり

▲家庭博と三中井 京城本町二丁目三中井呉服店にては冬物新柄多數荷著につき來る十月一日より五日間大賣出しを開始すべく該期間中一般顧客に對し家庭博覽會入場券を贈呈する由

閑院宮御渡鮮記念繪葉書

殿下今回の御渡鮮を永く記念せん爲め

▲仁川御上陸の光景
▲水族館御成の光景
▲龍山御著の光景

（以上三枚一組 定價十錢）（印刷美麗鮮明コロタイプ版謹製）

右拜寫謹製し十月一日發賣實費を以て希望者に頒つ速かに申込ありたし

京城日報社

…工場を買受けたる大阪…會社にて工場の一部を改築することとなり多數の職工にて取毀ち作業中…傷者を出だせり（大阪特電）

…ねたる結果愈々相談纏まり來月十日を締りて株主會揚に乘り込ましむる

▲交易の商况

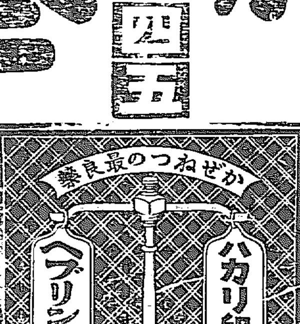
△書之部

▲無得點　▲萬壽舞　▲演舞

端川郡守朱琪氏は廿七日自宅に於て割腹自殺を遂げたり原因不明なるも多分精神に異狀を來せる爲めなら

…株式會社の共濟會にては十月一日午前十時より社員相互の親睦を計り勞々慰勞の爲め奨忠壇に於て運動

十月一日二日三日四日五日
冬物大賣出し
京城本町
ます屋呉服店
電四八三番

かぜねつの最良藥


かぜをねつには油断せず直ぐ本劑を用ゐられよ

院長 岡山醫學士 村上徳一
内科 小兒科 婦人科
京城醫院
京城本町二丁目（電話七四二番）

礦石買入廣告
一、タングステン礦
一、水鉛礦
一、マンガニース礦
一、亞鉛礦
右買入候間多少に不拘御來談被下度候
京城南大門通四丁目二十二番地（電話二四二番）
合資會社 高田商會出張所

洗濯用として石鹸撰擇を誤らず試みられよ日本唯一の長崎木貞石鹸品質善良にして最も經濟的なり
長崎 木貞石鹸
他には無き特色は長崎稅關假置場にて製造する本品は原料に對し輸入稅免除の特典を有し價格最も低廉なり
特約店 京城明治町 牧野商店 電話二五三番

金牌受領
上酒壹升に付四拾錢（御買は特に割引可致候）
清酒 美林 燒酎 釀造元
京城櫻井町一丁目 中井酒造場 電話百七十七番

平壤市民の樂園瑞氣山を背景とし四季の眺望佳絶、閑靜にして設備完全
朝鮮總督府御指定旅館
平壤山手町
柳屋旅館
長電話二〇六番

機械油カーバイド
車輛油 機械油 輕油 重油 製造販賣
日本石油會社機械油九州一手販賣
信濃電氣會社カーバイド西部一手販賣
本店 門司市錦町（電話四五一番）
製油所 新潟市關屋大川前（電話四三三番）
岸商店

大阪三品
▲二十九日前場
九月限 〔不鮮明〕
十月限 一二九·〇 〔不鮮明〕
▲二十九日後場
一月限 一二一·八〇 一二〇·五〇
二月限 一二二·三〇 一二一·七〇
九月限
十月限 一二八·四〇 一二八·九〇
下關朝米
▲後場 當限納合 △中限寄付十一圓八十五錢止め出來不申 △先限寄付十二圓九錢止め十一圓九十一錢

仁川米豆取引所
▲廿九日後場 大阪先廿二圓十二錢後寄第九錢の入電當地中出來不申 先八圓八十七錢と三錢安に寄付き…

▲後場保合ふ 大阪の下落を受けて八圓八十七錢こ…
石貫三二千三百石賣(四)二百石賣二百石賣(六)三百石賣九百石賣(八)百石賣(十)千石賣八百石賣
▲廿九日後場 先限(一)八圓八十七錢六錢七錢(二)二十七錢六錢(四)八十三錢二錢一錢二錢三錢二錢(五)八十三錢四錢五錢四錢五錢四錢五錢四錢
二十九日の十一月限
平均値段
一 八圓八十七錢
二 八圓八十六錢
三 八圓八十二錢
四 八圓八十四錢

瓢の旗風（567）

番衆浪人

賤が嶽前記（九）

内中尾山の、勝家の本陣へ、案内もなく、這入て來たは、久佐間玄蕃である。地圖を開いて、頻りに考へて居る勝家の前に、堂々と坐つて、一統御、入構ひの、顔はしゆう、玄蕃、思ふ存續のあつて……、勝家は、玄蕃の注文通り、近臣を遠ざけた。

「柴田伊賀守、秀吉方から翻れて、當方に、引き返した築、其後に殘の山路將監は……」

「フウン、……」

「其れおや、將監は元來、此の玄蕃に大恩ある者、今は伊賀に附き居るも、伊賀の去つた今日、まさか玄蕃の、申す事反き申すまい」

「其れ、何か、思案のあると云ふかよ」勝家も膝を進めた。玄蕃は聲を低めて。

「されば、將監が、同郷の竹馬の友で、我鐵砲頭の者に、宇野忠左衛門御坐ります。玄蕃、常から目をかけ居れば、彼れを使者として……」

勝家は、ハタと膝を叩いて。

「可い、可い、玄蕃、其の者早速呼べ……」

玄蕃の進言で、宇野忠左衛門を、山路將監の陣所に遣はして、裏切りを勸告する事となつた。而して忠左衛門は、直に山路の陣所に向つた。

最う子の刻、堂木山の、山路の陣中は、大概寢靜まつて、夜廻りの、拍子木の音が、靜けさを破つて響く。

其の取出の、表の木戸明く一人の男がある。

「何方からおや」門番の士は、聲をかけた。

「不審な者ぢやない、將監殿に御面會、夜中の推參は御免、宇野忠左衛門參つたと、お取次たのみ入る」

やがて門扉は開かれた、忠左衛門は、急いで將監の前に導かれた。

「ヤツ、宇野、久しぶりおやな」將監は快氣に云ふ。

「絶えて、先づ御健勝……」と忠左衛門は、可時に挨拶した。

「夜中何の用、其方玄蕃殿手にあることを……」

「いかにも、心中……を致す味方を……」

「將監殿に心外御作る、玄蕃殿思、決して忘れは致さぬ、しかし、今の有樣、引かれん、明日は最う討死……」

「マ、とんでもない、其の儀忠左衛門察して、今宵忍んで來申したゾ」

「何と、其方知つてか……」將監は膝を進めた。

「知らいで、竹馬の友のお身、お身は筑前から、若し柴田殿滅亡の時は、丸岡の城預るお心でかな御坐らう」

忠左衛門は、將監の面をキット見上げた。

「如何にも、が、其方何うして、其れを……」

「ハツハ、、、、」と忠左衛門は笑ひつゝ。

「丸岡の城、柴田伊賀守持御坐らぬか、伊賀は筑前の臣、お身内の修理樣にも弓ひく者、今度の合戰で、筑前の敗北は必條、其の後伊賀守は何う御坐らう」

「其れも……」と將監は腕を組んで考へ込んだ。

「先づ、御覧じ、玄蕃樣からの」と忠左衛門は、玄蕃から將監に宛てた一封を出した。

「何に、玄蕃殿からとかよ……」受け取つた將監、急に思案して、

「丸岡は八萬石、其の上に大野郡を合せて、十二萬石、エ、、將監を之れ程迄に、忠左殿、萬事承知、御使者大儀、一献參らうぞ」

「其れで、忠左の面目は立つ譯、玄蕃樣嘸お喜び、善は急げ、之れから直ぐ、申し上よう」引き留むる將監を、無理に斷つて、忠左衛門は堂木山の取出を辭した。

忠左衛門が歸ると、將監は早速、腹臣の今井角右衛門、と野村市内を呼んだ。

「ヤ、兩人、夜中甚だ、實は餘の儀でもない、其方等に五千石一」將監は、兩人の智慧を、得意氣に云ひつゝ、……

「其れは又た、思ひも寄らぬ……」と角右衛門は、身を乘り出した。

「最も、今度佐久間殿から、丸岡、大野十二萬石を頂戴したワ」

「エ、其れでは、殿、佐久間殿に御加勢……」と市内も膝を進めた。

「如何にも、其方等、其の土産に、蜂須賀、木村の首取つて貰ひたい」

將監の目は輝く。

「殿、其れは……」と兩人も面を見合せた。

「不可、されば不慾、只今兩人、將監が手にかゝるか」將監は、側の刀取つて、柄に手をかけた。

「マ、暫時、何でお言葉反きませう、委細承知」

「さらば、明朝、角右衛門は蜂須賀、市内は木村の陣へ、將監茶の湯の催にと招きに行つて與まいか」

「お受け、兩人使者參りませう」

「其の當日、二人を打ち取る處存」

「之れは御名案、必ず仕損じは仕らぬ」

角右衛門と市内は、翌朝茶の湯の案内に行つた、處が此の兩人が、秀吉からの間者とは、將監は夢にも知らなかつた。

「而して、此の事は破れて、將監は陣所を焼いて、玄蕃の側に走いたのであつた。

●呉大將捕はる

五道を跋扈せし

去る明治四十二年以來數十名の部下を率ゐ或は蔡應彦と協力して平南北、黃海、江原、咸鏡の五道を荒し廻り屢々憲兵を殺傷せる呉大將事平南大同郡生れ呉承泰（三九）は此程平壤警察署の手に捕へられ目下地方法院に於て審理中

●大每講演盛況

豫定の如く大阪每日新聞巡回講演會は廿五日平壤、廿六日鎭南浦に於て開催折惡しく天候不良なりしも兩地共頗る盛況なりし

●女房殺し逮捕

平壤上水口里趙××の果樹園に於て自己の妻曹吉史を嫉妬の餘り殺害して逃走したる朴仁善（二三）は其後各地を徘徊し機を見て遠隔の地に逃亡せんとして去二十六日午前新水口渡船場に來るを見張し署員に拘引せられ嚴重なる取調を受け不日檢事局送りとなるべしと

▲廣　告▼

於内外各國博覽會賞牌受領
法琴　三味線　及び附屬小道具　並に　謡楽器　附屬品
東京日本橋室町（三越前）
本家　木屋彌　岡野勘蔵
電話本局一四三三　振替東京一七三三　電略キカン
全國郵送代金引換

小兒良藥　樋屋奇應丸
專治　小孩失神、癲癇　及發生熱蟲　等に奇効神の如し
到る處の藥店に有り
樋屋合資會社　大阪天満橋

共進會クラブデー
九月二十七日より十月六日まで　クラブ化粧品の内何でも十錢以上の品御買上の方は
始政五年記念　共進會　無料で見られます
其上品が御手に殘ります
共進會觀覧券　五万枚進呈
若し豫定期間中前記五萬人以上に達したるときは更に追加し全部に殘らず進呈
觀覧券進呈所
光化門通新橋際　クラブ化粧品總本店　臨時出張所
本町二丁目　クラブ化粧品代理店　古城賛化堂
京城日報社内　家庭博覧會　クラブ賣店
御買求の品は
京城・龍山の小賣店で御買ひ求めの上觀覧券進呈所へ御持參になれば共進會觀覧券一枚宛進呈
例へば　クラブ歯磨・クラブ乳液化粧水
又は　クラブ白粉・クラブ美身ゼリー
又は　クラブ洗粉・クラブ美身クリーム
又は　クラブ香油・クラブ化粧水
又は　クラブ各種化粧品の内價格十錢以上の品
御持參の方には殘らず
共進會觀覧券一枚宛無代進呈（御持參の化粧品には記念スタンプを捺して直ぐお返し申します）共進會が只で見られて其上品物が御手に殘ります
クラブ歯磨　クラブ白粉　クラブ洗粉　本店

大田温泉
南鮮唯一の靈泉だと稱せらるゝ大田温泉は開業茲に一年浴室は申すに及ばず旅館の設備殆ど完全し浴客日々數を増し面目一新致し候　交通至て便大田驛を去る僅かに二里道路平坦砥の如くに候（人力車往復一圓五十錢自動車同八十錢）　風景夏に宜しく西に忠南の名岳鷄龍山あり中名利東鶴寺甲寺あり温泉を去る一里餘東錦江支流に臨み消夏好適の地に候何卒大方の諸彦御一遊の榮を仰度候
大田温泉株式會社

寫眞
寫眞出張撮影　寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も迅速と可成親切を旨とし御高需に可應候
京城日報社　寫眞製版部

日本郵船仁川出帆
三河丸 大連行（芝罘經由）十月廿一日 正午出帆
相模丸 九月 八日 正午出帆
○青島直行（大連芝罘行）
江原丸 九月 日 出帆
仁川海岸通一丁目 堀回漕部

朝鮮郵船
京城南大門 松原運送店（電話二七〇）
本社（電話長一九五二・三一三番）
全羅丸 △十月十五日 △十月五日 釜山發
京畿丸 十月十七日 十月九日 釜山發
咸鏡丸
慶平丸 九月三十日 元山發
平城丸 十月 六日 元山發
京城丸 十月十四日 元山發
清津丸 十月十七日 元山發
忠清丸 十月十四日 元山發
小興丸 毎月廿八回 元山發
新浦丸 十月一日 釜山發
江陵丸 毎日（釜山浦項）發
陽丸 毎日
漢城丸 十月一日 釜山發
濟州丸 十月十四日 木浦發
麗水丸 毎日 釜山發
天丸 三日目毎 木浦發
興丸 十月一日 木浦發
州丸 十月三日 木浦發
信丸 十月六日 仁川發
江原丸 十月六日 仁川發
麗水丸 十月四日 仁川發
全州丸 九月三十日 仁川發
咸陽丸 毎日午前 仁川發
平安丸 十月十三日 若松發 十月十六日 群山發

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 十月 五日後五時出帆
○元山、城津、浦鹽行 小倉丸 十月十四日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸 九月 日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行 立神丸 十月 七日後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三享平丸 十月 七日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三享平丸 十月十三日後六時出帆
○佐須奈、巖原、壹岐、博多行 天與丸 毎月二日九日十六日廿三日廿一日 午後十時出帆
釜山埠頭 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十月 七日後五時出帆
若代丸 九月 三日後四時出帆
神代丸 十月 日後四時出帆
大有丸 十月 五日後五時出帆
第二太湖丸 九月 日後五時出帆
○群山、大阪行 土海丸
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
第一共同丸 芝罘、大連行 九月 日後七時入港 十月一日前九時出港
第二共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行 九月 日前八時出帆
第一阪鶴丸（元山出帆）城津、清津、浦鹽行（元山出帆） 九月 日後九時出帆
阿波國共同汽船株式會社
河村運送店

大阪商船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 漢城丸 十月七日 午後二時
溫州丸 九月三十日 午後五時
須磨丸 十月四日
×安東丸 十月 三日 午後二時
×天草丸 十月九日
○鎭南浦、大連行 安東丸 十月 五日 午後二時
天智丸 十月十三日
○鎭南浦、關門、神戸、大阪行 漳州丸 月 日 正午五時
○群山、釜山、横濱行 千珠丸 十月九日 午後四時
チヨイサン丸 十月廿一日 出帆
△大連直行 千珠丸 十月 四日
チヨイサン丸 十月十五日 正午出帆
○元山、清津、浦潮行（釜山出帆）
久丸 十月十七日 午後九時出帆
宮丸 十月七日
城津丸 十月十二日
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
平丸 十月 一日 午前四時出帆
高丸 十月十一日
京城切符發賣所 大阪商船會社支店 電話二〇二五五〇
仁川切符發賣所 内國通運會社支店 電話七八〇番